



Ritsumeikan University
College of Letters

教 学 の 手 引 き

2005

人文総合科学インスティテュート
国際プログラム

文 学 部

Table of Contents

人文総合科学インスティテュート 国際プログラム

I 人文総合科学インスティテュート国際プログラム 教学紹介

① 人文総合科学インスティテュート国際プログラムとは	3
② 国際インスティテュートとは	3
③ 国際プログラムでの学び方	4
④ JWPプログラムとは	11
⑤ 研究入門の学び方	11
⑥ 卒業論文（非卒業論文形式含む）について	13
⑦ レポート・小論文の書き方	15
⑧ 国際プログラムのためのユニットプログラム	17
⑨ 国際プログラムのみなさんのための参考情報	19
⑩ 参考文献	24

II 科目一覧及び受講登録方法

① 科目一覧	28
② 履修方法	31
③ 受講登録上の注意	32

III 学修を進めるにあたって

① 文献資料室と共同研究室	35
② クラスロッカーの使用方法について	35
③ セミナーハウスの正課用利用の手引き	36
④ 学生印刷室の利用について	37
⑤ 自主ゼミ援助制度について	38
⑥ 「小集団教育推進補助費」の取り扱いについて	38
⑦ 清心館「学生談話室」の利用について	39
⑧ 立命館大学人文学会	39
⑨ 文学部事務室について	40



人文総合科学インスティテュート
国際プログラム 教学紹介

1 人文総合科学インスティテュート国際プログラムとは

人文総合科学インスティテュート国際プログラムの特長は、文学部が擁する数多い専攻・諸分野をベースに人文学を幅広く修得すると同時に、立命館大学衣笠キャンパスにある5学部（法・産業社会・国際関係・政策科学・文）が学部の枠組みを超えて提供する国際関連分野のカリキュラム（国際インスティテュート科目）を学び、幅広い人文学的素養を身に付けた国際性豊かな人材を育成するところにあります。

カリキュラムでは、1・2回生では幅広く人文学を学習することに力を置きます。2回生から国際関連分野の専門科目を学びます。当然、外国語の修得にも力を注いでいます。

文学部には、10の専攻と、総合的・学際的に人文学を学ぶ人文総合科学インスティテュート（3プログラム）があります。単一の学部でこれだけ広い学問分野を擁している学部はそんなに多くないでしょう。しかし「人文学」というカテゴリーで括られながらも、このように多様な学問分野を「総合的」に学ぶということはなかなか大変なことです。みなさんがどのような分野を学びたいか、という積極的な意識の喚起の継続が、学修計画にとって重要となるでしょう。ひとつの専攻に所属していると、おのずから学修する科目や内容は決まってきます。しかし、国際プログラムのみなさんが取り組む「人文学」は多様な分野を内包しています。そして、将来、国際的な分野で活躍されることを目指しつつ、そのベースとなる素養を人文学に求めるわけです。みなさんが国際社会で活躍する上で、どのような人文学の素養を身につけるか、これをいつも意識するようにしてください。国際経済や経営学、もしくは国際政治学や法律学など一般に社会科学と呼ばれる分野は、一見、国際社会で通用する有用なツールと思われるがちです。もちろんそのとおりで、みなさんも国際インスティテュート科目の中でそのような学修も進めるわけですが、みなさんが考えている以上に実際に国際社会で活躍するには人文学の素養というものが非常に重要です。どのような分野で活躍するにしても、その行為に歴史的、文化的、思想的な裏打ちがなければ、その行為の価値は非常に薄いものとなるでしょう。賛否は様々ありますがーそして日本の学生の大半は否定的ですがー、アメリカ合衆国のブッシュ大統領はエール大学歴史学部卒業です。同じ日本人同士のコミュニケーションや人間関係は、お互い同じ文化や思想背景があり暗黙の共通項が存在しますが、国際社会における関係ではその異なる歴史観や文化的背景、思想の違いを明確にし、そしてそれを尊重することから始まります。そして、国際社会における様々な行為の背景にある価値観が、多様な国際社会の中で尊重されるべきもののなかかどうか、ということが重視されるのです。

現代、私たちは地球規模の問題を数多く抱えています。そして、こうした問題のほとんどは、例えば発展途上国の急激な開発が深刻な環境問題を引き起こしているように、互いに複雑に関連しており、解決策を導き出すことは簡単ではありません。文学部の国際プログラムは、このような全世界が直面する問題に、「ひと」が「ひと」でありつづけることを追究する人文学の視点から、柔軟な対応力と優れた行動力を発揮し、NGOや国際援助機関をはじめとする国際的な活動の舞台でリーダーとして活躍できる人材を育成することを目的としています。これから国際分野で活躍を志しているみなさんが「人文学」を学ぶ意義、というのをいつも問い掛けて、目的意識をもって学ぶように期待します。

2 国際インスティテュートとは

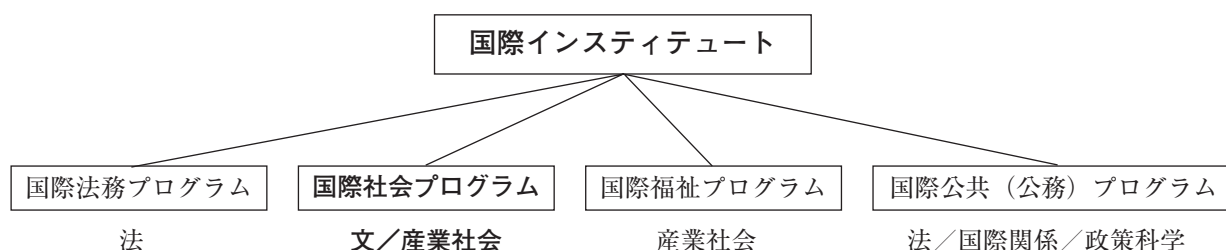
国際インスティテュートは、衣笠キャンパスにある法、産業社会、国際関係、政策科学、文学部に所属する学生が、それぞれの学部で培う専門性を基礎に国際社会へ進路の共通目標を設定して学ぶ教育システムです。本学のインスティテュートは、従来の学問体系をもとにした学部や学科、専攻などの枠組みに該当しない新しい学問分野を創造したり、それらの枠組みを越えて教学の連携をめざすものです。国際インスティテュートは文学部の人文総合科学インスティテュートや、BKCの文理総合インスティテュートに次いで、国際教育の分野で展開する3番目のインスティテュートとして設置されたものです。

国際インスティテュートは、国際社会への進出分野に即した専門科目を学び専門外国語に力を注ぎながら、これらと連動した海外研修に積極的に取り組みます。また、発展的に大学院での学習につなげることもめざします。取得単位数でいえば国際インスティテュートの30単位は大学で学ぶ総取得単位数の4分の1程度ですが、単位数だけでは測ることのできない幅をもつものとして教学の充実をめざします。

そしてさらに、2005年度からは国際インスティテュートのアドバンスト・プログラムとして、『Japan and World

Perspectives Program（以下JWP）』が開設されます。このプログラムの希望者は、要卒単位124単位のうちの62単位を「英語で開講する国際インスティテュート専門科目（JWP科目＋専門英語科目）」と「留学先で学ぶ科目」とで履修します。つまり、4年間の学びのなかで、留学と英語による専門科目の履修とを体系的に組み合わせ、本格的な国際化教育を展開します。

国際インスティテュートは、国際法務、国際社会、国際公共（公務）の3つのプログラムに分かれます。文学部の国際プログラムのみなさんは、国際社会プログラムに所属することになります。ここでは、国際プログラムについて説明します。



3 国際プログラムでの学び方

国際プログラムのみなさんは、多様な人文学の諸分野の中から、自分にあった専門分野やテーマを見つけなければなりません。これは皆さんが思っているより大変なことだと申し上げて良いでしょう。文学部では10の専攻と3つのプログラムがあります。そして、国際インスティテュート科目も同時に履修していかなければなりません。そうした学修を経て、自分に適したテーマを見つけ出さなければならないのです。そのためにもみなさんは1回生の時点から「4年間の学修の流れ」をイメージすることが求められます。1回生だから1年間のことだけを考えていたら良いというわけではないのです。したがって、この「教学の手引き」は必ず全て読み、みなさんの4年間の学修計画をイメージするよう努めてください。

また、国際プログラムは多様な科目受講ゆえに、その履修方法や手続などが複雑です。制度的な側面も十分理解した上で学修計画を立てるようにしてください。特に、2002・2003年度に入学した方で教職課程の履修を進めている方は、「3回生進級の際の注意事項」をよく読んでおいてください。

（1）学修におけるポイント

人文学諸分野の総合的学修

国際プログラムで開設している「研究入門（1回生）」「基礎講読Ⅰ・Ⅱ（2回生）」で人文学の諸分野の方法論を中心に学びます。それと同時に、他専攻・プログラムの専門科目を積極的に学び、各分野の具体的内容を身に付けてください。人文学の諸分野を学ぶと同時に、将来的にどのような分野を専門として研究対象としていくのか、常々考えるよう習慣付けましょう。

3回生進級時には、演習（ゼミナール）を選択することとなります。この選択するゼミが最終的な専門領域となります。国際プログラムのみなさんは、文学部のゼミを受講した上で、国際関係学部でのゼミを受講することもできます。詳細は後述します。

国際インスティテュートでの学修

国際インスティテュートの科目は、国際関係分野の講義科目である専門科目と外国語運用能力を養成する専門外国語科目の2つに分かれます。専門科目は1回生から始まり、演習形式で行うものと講義形式の科目の2種類あります。演習形式のものは「国際社会フォーラム入門（1回生）」「国際社会フォーラムⅠ（2回生）」「国際社会フォーラムⅡ（3回生）」で、国際分野での諸テーマについて演習形式で学びます。講義科目は、1

回生配当の基礎的なものから配当回生があがるとともにより専門的で特定のテーマの内容となります。国際インスティテュート専門科目は14単位以上、国際インスティテュート専門外国語科目は12単位以上、両方合わせて計30単位以上取得することが卒業の必要条件となっています。

外国語運用能力

学部の外国語の授業と国際インスティテュートで学ぶ外国語の2つの学修があります。学部の外国語の授業では国際プログラム専用のクラスを設け、徹底的に英語運用能力を高めます。同時に初修外国語も学びます。第1外国語として選択した語種は2回生も学修します。国際インスティテュートでは、2・3回生時に専門外国語科目が設けられており、目的に応じた外国語学修を進めます。また2005年度よりJWPプログラムが開始され、多くの英語による専門科目が開講されます。履修には一定の語学力（TOEFL480点程度）が求められます。

これらの学修を通じ外国語運用能力を徹底的に鍛えてください。どのような知識や立派な意見を持つとも、意思疎通の手段である外国語ができなければ意味がありません。外国語を身につける方法は、まずは長い時間外国語に接することです。外国語学習に近道はありません。時間を惜しむことなく外国語学習に費やしてください。

情報処理能力

人文学における研究にも、情報処理能力は必要不可欠となっています。国際プログラムでは、1回生時は文学部1回生全員が受講する「リテラシー入門」で、2回生時は国際プログラムおよび総合プログラムだけの科目「人文総合科学情報処理Ⅰ・Ⅱ」で学修します。

(2) 1回生での主な学修

分野	学 修 の 内 容
人 文 学 の 学 修	研究入門
	文学部では人文学の諸分野を次の5つの領域に整理しています。国際プログラムではこの領域の中から国際プログラムに関連あるものを毎年3つ選択し、人文学の方法論に関する基礎をみなさんに学んでもらいます。各領域の講義終了後には、それぞれレポートをまとめて提出しなければなりません。また、研究入門では講義以外にも「ワークショップ」という研究発表の場も設けています。詳細については、別項に記しますので、必ず参照してください。
	A領域：表現文化系
	文学や芸術など、文化として表現される領域です。文学部の専攻では、日本文学、中国文学、英米文学などがこれに該当します。
	B領域：文書史料系
	主として文書や史料を研究対象とした領域です。文学部の専攻では、日本史学、東洋史学、西洋史学などがこれに該当します。
	C領域：フィールドリサーチ系
	机上だけではなく、屋外のフィールドを研究対象とした領域です。文学部の専攻では、日本史学考古学コース、地理学がこれに該当します。
	D領域：行動科学系
	人間を研究対象とした科学的アプローチを主とする領域です。文学部の専攻では、教育人間学、日本文学（日本語学）、英米文学（英語学）、心理学がこれに該当します。
	E領域：メタ思考系
	人間の思考や思想を対象とした領域です。文学部の専攻では、哲学、教育人間（教育哲学）、中国文学（中国哲学）などがこれに該当します。
	各専攻・プログラムの1回生配当専門科目
	各専攻・プログラムにある1回生専門科目は、それぞれの学問領域を初めて学ぶ学生のための入門的な講義となっています。積極的に受講して、人文学の各分野での基礎作りに励んでください。各領域に対応する推奨科目は以下のとおりです。1回生ではなるべく多くの分野に接して欲しいので、各領域1科目は受講するようにしたいものです。具体的な内容はオンラインシラバスを参照しましょう。（人文：人文科学総合講座）

人文学の学修	A領域：中国文学概論Ⅰ・Ⅱ、英米文学概論Ⅰ・Ⅱ、英語表現概論、アジアの文学(人文)、英語文学(人文) B領域：日本史概説Ⅶ・Ⅷ、日本現代史概説Ⅰ・Ⅱ、東洋史概説Ⅳ・Ⅴ、西洋史概説Ⅳ・Ⅴ C領域：考古学概説Ⅰ・Ⅱ、人文地理学概論Ⅰ・Ⅱ、地誌（世界）Ⅰ・Ⅱ D領域：日本語学概論Ⅰ・Ⅱ、英語学概論、言語学Ⅰ・Ⅱ（人文） E領域：哲学概論Ⅰ・Ⅱ、倫理学概論Ⅰ・Ⅱ、宗教学概論Ⅰ・Ⅱ（人文） その他、自主学修について【重要】 国際プログラムに所属するみなさんの場合、幅広い学修をする反面、他専攻の学生に比し、どうしても特定分野の知識の深化に欠ける面が否めません。しかし、それは個々の自主学修で充分埋め合わせることが可能です。各領域の推薦図書を「9参考文献」に記載していますので、1年間に少なくとも各領域2冊程度は読むようにしてください。人文学を学ぶ上で、文献の講読は必要不可欠です。授業だけが学修ではありません。むしろ、授業で得た考え方や疑問、喚起された興味や関心について自ら調べて、自ら考察することこそが大学における学修といえるでしょう。特に国際プログラムに所属するみなさんには自ら学ぶ習慣を身に付けることが重要です。自主学修で積極的に様々な文献を読む習慣を身に付けるようにしてください。
国際インスティテュートの学修	国際インスティテュート専門科目 1回生講義科目は2回生からの学びの導入として6科目開設されます。6科目のうち1科目を選択し、履修をしてください（1科目のみ履修可）。演習形式の科目は「国際社会フォーラム入門」があります。通年の科目で、隔週で授業を行います。隔週で授業を行うということは、授業と授業と間隔が2週間あることとなります。授業内もちろんですが、授業外での自主学習がこの授業のポイントとなりますので、積極的な自主学習に努めてください。この科目は登録必修ですので、必ず受講してください。 また1回生7月頃JWPプログラム（詳細は4「JWPプログラムとは」参照）への申請があります。募集時点でTOEFL480点程度の語学力が必要とされますが、履修を考えている学生は忘れずに申請をしてください。 海外研修 国際インスティテュートでは、在学中に、なるべく多くの海外経験を積んでもらいたいと考え、様々な形態の海外研修プログラムを用意していますので、積極的に参加してください。 海外研修は、協定校において英語や専門科目を学んだり、現地の地域・文化を体験する「アカデミックラーニングタイプ」、特定のテーマで調査・研修活動を行う「フィールドワークタイプ」、企業や各種機関で就業体験をする「インターンシップタイプ」の3つあります。（一部国内での研修もあります。） 時期は、2～3月の冬期休暇期間中、もしくは8～9月の夏期休暇期間中に大別されます。期間は2～5週間、単位は「海外スタディ」もしくは「国内／国外インターンシップ（国際インス専門）」で国際インスティテュート専門科目として認定されます。また、学生が自主的に企画する研修を「スチューデントイニシアティブ科目」として認定する制度もあります。いずれの場合も、詳細は、ガイダンスが行われますので、必ず参加するようにしてください。なお1回生が参加できるのは、1回生後期2～3月のプログラムからとなります。 参加にあたって、多額の費用が必要で難しい場合もあるかと思いますが、しかし、例えば、3回生夏期に参加する目標を1回生後期に定め、アルバイトで1ヶ月2万円貯金すると考えると、18ヶ月×2万円／月＝36万円の積み立ては可能です。決してあきらめずに、長期的な視野に立って、目標の実現に努力しましょう。
外国語	第1外国語・第2外国語 文学部共通で、1回生時に第1外国語、第2外国語をそれぞれ6単位ずつ受講しなければなりません。国際プログラムの場合、第1外国語か第2外国語でかならず英語を選択しなければなりません。

イン グ デ ミ ツ ク ラ イ テ	リテラシー入門 文学部共通の科目で、文章作成能力（アカデミックライティング）および情報リテラシーの基礎を養成する科目です。アカデミックライティングでは年間3回テーマを定めてレポートを課すなどします。情報リテラシーでは、実際にパソコンを使用しながら基本的な利用方法を実習します。登録必修科目で必ず受講しなければなりません。1年を通じて学修し、教養科目として認定されます。
--	---

*上記以外にも、1回生から教養（基礎）科目の履修を進めなければなりません。

(3) 2回生での主な学修

分野	学 修 の 内 容
人 文 学 の 学 修	基礎講読Ⅰ・Ⅱ 1回生での学修で、ある程度自身の興味や関心が固まってきたと思います。1回生で学んだことを基礎に、2回生では2つの領域に絞って学修します。同じ領域を2つ受講することはできません。授業内容は研究発表を中心としたものとなります。また、この基礎講読Ⅰ・Ⅱは、総合プログラムの学生と一緒に受講することとなります。 人文総合科学概説Ⅰ・Ⅱ 人文学のコアとなる学問手法を総合的・学際的なアプローチで概説する科目で、1回生時にみなさんが学んできた人文学の内容をまとめる役割を担います。国際プログラムの学生は「Ⅰ」を登録必修科目としていますが、なるべく「Ⅱ」もあわせて受講するようにしましょう。 各専攻・プログラムの専門科目 この段階になると、かなり興味や関心が定まってきたと思います。その分野の専攻の1・2回生専門科目を中心に履修すればよいでしょう。2回生配当で特殊講義が開設されている専攻もありますが、1・2回生の間はなるべく概説や概論と呼ばれる科目を多く履修するのが良いでしょう。履修上の注意点としては、古代や中世・近世のテーマを学習することも良いですが、必ずどこかの地域の近現代のテーマを修めるようにしてください。それが国際的視野を広げることに役立ちます。 また、2回生の間に、どのような人文学の学問的手法を身につけようとするのか、よく考えるようにしてください。例えば、歴史学的アプローチ、地理学的アプローチ、文化的アプローチ、などが代表的なものとしては考えられます。マスターすべき学問手法は何か、常に考えるようにしましょう。
国 際 イ ン ス テ ィ テ ュ ー ト の 学 修	国際インスティテュート専門科目 【専門外国語】 専門外国語の語種選択は、前年度の11月頃に行われます（国際関係学部事務室）。選択できるのは、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語のいずれかで、初修外国語を選択する場合は、1回生時にその外国語を履修していることが条件です。国際公務員を目指す方はフランス語の習得に励むのが良いでしょう（英語はできて当然です）。初修外国語を選択した場合、副専攻初修外国語（独・仏・中・西）4単位コースが履修できませんので注意してください。 英語を選択した場合、「国際社会プログラム英語」（2回/週）が登録必修科目となりますが、これは1回生時のTOEFL・ITPの成績をもとにしたグレード制クラスとなります。 【専門科目】 2回生から、国際インスティテュートの各プログラム特有の科目が開設されます。興味・関心に応じて積極的に受講してください。演習形式の科目は、「国際社会フォーラムⅠ」という科目があります。3回生の「同Ⅱ」と合同で開講される授業です。「国際社会フォーラムⅠ・Ⅱ」は幾つかのテーマに分けて開講されます。この授業は産業社会学部の国際インスティテュート学生も一緒に受講しますので、異なる視点を持った学生同士、積極的に授業に参加してください。国際社会では何事にも積極的に自分の意見を主張しないといけません。これは何も欧米に限ったことではなく、他のアジアの国々やそれ以外の地域の人とコミュニケー

国際 イン ス テ ィ テ ュ ー ト の 学 修	ションするときも同様です。大学の授業で自分の意見や考え方を表現できないのなら、国際社会で活躍するのは無理と考えた方が良いでしょう。みなさんの積極的な授業参加を望みます。 また2005年度よりJWPプログラムが開始されます。JWPプログラムでは多くの英語による専門科目が開講されます。履修には一定の語学力（TOEFL480点程度）が求められます。積極的に受講をしてください。 国際インスティテュート専門科目の中の幾つかは、他学部の専門科目と同じ授業として開講します。したがって、3回生になって他学部受講をする場合、同じ授業を受講しないように気をつけましょう。そのような授業の詳細は、「国際インスティテュート学修ガイドブック」のカリキュラム一覧表に記載されています。 海 外 研 修 国際インスティテュートでは、在学中に、なるべく多くの海外経験を積んでももらいたいと考え、様々な形態の海外研修プログラムを用意していますので、積極的に参加してください。 海外研修は、協定校において英語や専門科目を学んだり、現地の地域・文化を体験する「アカデミックラーニングタイプ」、特定のテーマで調査・研修活動を行う「フィールドワークタイプ」、企業や各種機関で就業体験をする「インターンシップタイプ」の3つあります。（一部国内での研修もあります。） 時期は、2～3月の冬期休暇期間中、もしくは8～9月の夏期休暇期間中に大別されます。期間は2～5週間、単位は「海外スタディ」もしくは「国内／国外インターンシップ（国際インス専門）」で国際インスティテュート専門科目として認定されます。また、学生が自主的に企画する研修を「スチューデントイニシアティブ科目」として認定する制度もあります。いずれの場合も、詳細は、ガイダンスが行われますので、必ず参加するようにしてください。 参加にあたって、多額の費用が必要で難しい場合もあるかと思います。しかし、例えば、3回生夏期に参加する目標を1回生後期に定め、アルバイトで1ヶ月2万円貯金すると考えると、18ヶ月×2万円／月＝36万円の積み立ては可能です。決してあきらめずに、長期的な視野に立って、目標の実現に努力しましょう。
--	---

(3) 3 回生での主な履修

分野	学 修 の 内 容
人 文 学 の 学 修	ゼ ミ (演習) 国際プログラムのみなさんは、ゼミ (演習) として「テーマリサーチ型ゼミナール」、もしくは学際プログラムで開設されているゼミナール (2003年度以降入学生のみ) から、いずれかのゼミナールを選択して受講しなければなりません。これらのゼミは基本的に複数受講も可能なので、後期に開催される文学部ゼミ説明会もしくは文学部事務室で詳しい情報を確認してください。 各専攻・プログラムの専門科目 この段階になると、すでにみなさんが身につけると意図している学問手法のイメージはできているでしょう。その分野の専門科目を学修するようにしましょう。特殊講義などの特定のトピックを扱うものも積極的に履修してください。また、人文科学総合講座の「外国文化講読」(通年 4 単位) は学部共通の登録必修となっていますので、忘れずに履修しましょう。第 1 外国語のものを選択することとなります。 人文総合科学外書講読Ⅲ・Ⅳ 3 回生時の「人文総合科学外書講読Ⅲ・Ⅳ」は登録必修ではありませんが、極力、受講するようにしてください。外国語による文献講読ですが、内容は、人文学の諸領域に関連するもので、みなさんの人文学の学修に大いに寄与するものです。学際プログラムが中心となって運営している科目なので、予備登録は学際プログラムに申し込むこととなります。
国 際 イ ン ス テ ィ テ ュ ー ト の 学 修	国際インスティテュート専門科目 【専門外国語】 2 回生時に選択した専門外国語の学修を進めます。英語を選択した場合、「国際社会プログラム上級英語」(2 回/週) が登録必修科目となりますが、これは 2 回生時の TOEFL・ITP の成績をもとにしたグレード制クラスとなります。 【専門科目】 講義科目については 2 回生と同様ですが、なるべく人文学の学修と関連付けられる科目を選択するのがよいでしょう。演習形式の科目は、「国際社会フォーラムⅡ」です。身に付け始めた学問手法は、産業社会学部の学生とは異なるはずですが、しかし、国際社会で活躍する場合、異なる見解や考え方をを持った人と意見を交わす場面は多いでしょう。積極的に授業に参加してください。 国際関係学部の演習 国際インスティテュートの科目ではありませんが、国際プログラムのみなさんは国際関係学部の演習を受講することができます。これは自由選択分野に単位認定されます。文学部の演習を受講しながら他の学部の演習を履修するのは大変なことと思いますが、そんな事はありません。何事もチャレンジです。国際プログラムの学生なら、可能な限り積極的に履修するようにしてください。

(4) 4 回生の履修

4 回生での履修で一番重要なのは、演習で卒業論文 (テーマリサーチ型ゼミナールではゼミによっては論文の形式を取っていない場合もあります) を作成することです。学部レベルでも、ひとつの学術論文 (もしくはそれに匹敵するもの) を完成することは大変なことです。4 年間の学修の集大成をこの演習で表現して欲しいと思います。

(5) 2005年度テーマリサーチ型ゼミナール開講テーマ一覧(3回生ゼミのみ掲載)

分野	テーマ	担当者
歴史と思想	他者問題と文化理解	向井 俊彦／服部 健二
	教育現場と学校文化	村島 義彦／伊勢 俊彦
	オーラル・ヒストリー 2	前原 圭介
	暴力とヒューマニティー	加國 尚志／谷 徹
人間と文化	文化としての「移動」 2	高橋 秀寿
	世界の文化と多言語多文化社会における共生 2	上野 隆三／石井美桑雄／下川 茂
	性(性別)を考える～ジェンダー理論と表象分析～	中田 崇
	書籍とその周辺	中西 健治
言語と情報	辞書をつくる	朝尾幸次郎
	現代中国語文化圏(“兩岸三地”)の現在と中国語	宇野木 洋／岡田 英樹
	実践から学ぶ日本語教育	北出 慶子
	情報科学技術による言語諸学の展開	田中 省作
国際／地域社会	京都から発信する京都文化学	中本 大／三枝 暁子
	日本における中国文化の受容…儀礼・祭事等に見る	松本 保宣
	絵画からみる都市の風俗	川嶋 将生
	「宗教」から読み解く韓国朝鮮文化	佐々 充昭
地球と環境	ECOTOURISMエコロジーの旅 2	DAVID PEATY
	先進国と発展途上国の都市環境	江口 信清／生田 真人
	都市と村落の環境史	河角 龍典

(6) 国際プログラムにおける学修上の注意事項

① 副専攻の履修

国際インスティテュートの皆さんは、全学で募集する副専攻は履修できませんが、外国語コミュニケーションコースの4単位コースは履修できます。ただし、専門外国語で初修外国語を履修している人はその初修外国語の4単位コースは受講できません。

② 教職課程の履修：2002・2003年度入学の学生のみ適用

国際プログラムは、文学部にある5学科が集って構成されているプログラムです。皆さんは、最終的にはどこかの学科に自動的に所属するわけですが、教職課程の履修を除いて、学科の所属による違いは全くありません。(証明書、卒業証書、学生証など学科は記載されません。)したがって、教職課程を履修している場合のみ、教職課程のカリキュラムをどの学科の方法で取得するか、最終的な届け出をしてもらう必要があります。

i) 教職課程を履修している場合

教職のカリキュラムは学科によって異なります。また、学科によって取得できる教科が違います(下記参照)。皆さんは、どれかひとつの学科の方法で教職課程を履修してきたと思います。その学科を進路選択と同時に届け出ます。その学科が所属する学科となります。取得できる教科以外の教科の免許を取得したい場合、所属する学科の免許を取得する見込みのある方に限って許可される、他教科免許履修の制度(3回生より受講開始)がありますので、そちらを申し込んでください。

学 科	取 得 可 能 教 科
哲 学 科	中学校社会、高校地理・歴史、高校公民
文 学 科	中学校国語、高校国語、中学校英語、高校英語
史 学 科	中学校社会、高校地理・歴史、高校公民
地理学科	中学校社会、高校地理・歴史、高校公民
心理学科	中学校社会、高校公民

ii) 教職課程を履修しない場合

特に手続きをする必要はありません。

(7) 進路指導

国際プログラムは人文科学全体をじっくり見渡した上で、自分の適性を確認し、人文学の幅広い分野を学修します。そこで、適性の確認を促進するために、進路指導を強化しています。10月に全体的な進路指導面接を実施しますが、クラス担任あるいは講義担当者に随時相談してください。

1 回生の〈研究入門〉に引き続き、2 回生の〈基礎講読〉では、5 領域を2つ選択し、前・後期で各1 領域を学修します。12月～1 月に次年度開講クラスの仮メニューに基づき、受講希望調査を行い、本メニューを最終的に決定します。受講生の意見を柔軟に反映したクラス編成を追求します。

2 回生時にも、適宜、みなさんの進路指導を実施する予定です。3 回生の進路選択に向けて、色々な先生に相談するようにしましょう。

3 回生進級時には、みなさんはゼミを選択しなければなりません。進路選択で一番重要な視点は「卒業論文」のテーマです。今まで繰り返し学んだ経験や知識をもとに、「テーマリサーチ型ゼミナール」のどのテーマを選択するか決めてください。

4 JWPプログラムとは

教育目標

JWP プログラム (Japan and World Perspective Program) は、2005年度より新たに設置され、2004年度以降入学生が履修することができます。現代社会のグローバル化という事実とその主たるコミュニケーション言語としての英語に正面から注目し、今後国際的な舞台において臆することなく真に活躍・貢献できる能力ある積極的な人材の育成を目標に開講をしていきます。社会・人文科学領域で専門教育を提供する衣笠5学部に立脚する国際インスティテュートでJWPプログラムを実施することの意義は、専門性と英語力の統合にあります。高い専門性を身につけても、それを国際的に発揮するためには英語力が必要です。また英語による高いコミュニケーション能力を身につけても、伝えたい中身がなければ空虚というしかありません。JWP プログラムは入学時から専門性と英語力を強く関連づけ卒業までに両面で高い到達点を目指そうとするプログラムです。具体的には卒業に必要な124単位の内62単位を英語による専門科目で取得することを究極目標として設定しています。

JWPはアドバンスド・プログラムと位置づけていますので、必要要件を満たした希望者に参加が認められます。2005年度より開講されるJWP科目を履修するためには原則TOEFL480点以上のスコアが必要です。これらに留意しながら、履修計画を立て履修を進めてください。プログラムの詳しい履修方法については国際インスティテュート学修ガイドブックに掲載していますので、参照してください。

5 研究入門の学び方

(1) 研究入門とは

「研究入門」は、どの専攻・プログラムでも1 回生から4 回生のゼミ・卒業論文作成に至る4 年間のカリキュラムの第1 歩に位置付けられる重要な授業です。これまでも何度も述べましたが、国際プログラムでは人文学の多様な学修を通じて、総合的な知識や視野を獲得することを目的としていますが、この「研究入門」では、その多様な人文学の学問的手法、誤解を恐れずに簡略化して言うところの「物事に対する見方・考え方、アプローチの方法」を学びます。ここで誤解して欲しくないのは、研究入門で学ぶことはあくまで「考え方」であって、「知識の習得」を目的としていない、という点です。これが高校までの学習方法と大きく異なる点です。では、知識はどこで身に付けるかということ、通常の専門科目の講義でも良いのですが、特に重要なのが本を読むことです。人文学の学問分野に属する図書は、それこそ星の数ほどありますが、まず1 回生時で読んでおいて欲しい図書は推薦図書として「[9]参考文献」に記載しています。可能な限り読むようにしてください。大学では、特に幅広い分野を学ぶ国際プログラムでは、自主的な学修が肝要なのです。

(2) 研究入門の内容

さて、本題の研究入門の内容に入りましょう。国際プログラムの研究入門は「リレー講義」と「国際ワークショップ」の2つのパートに分かれています。これら2つのスケジュールは相互に取り組んでいますので、必ず授業最初のオリエンテーションに参加し、詳細なシラバスとスケジュールを確認してください。

① リレー講義

国際プログラムの研究入門は、リレー講義が大きな部分を占めています。人文学を、「表現文化系（文学）：A領域」「文書史料系（史学）：B領域」「フィールドリサーチ系（地理学・考古学）：C領域」「行動科学系（心理学・言語学）：D領域」「メタ思考系（哲学）：E領域」の5つの領域に分ち、毎年その中から3つの領域の担当者がそれぞれ前期4回後期2回のリレー講義を行います。授業のおよその流れは次のようになります。

講義は人文学各領域のポイントを概観できるように工夫されており、各領域における課題や研究状況が紹介されます。人文学の「学び方」を理解することによって、人文学のいかなる領域にも通用し、21世紀に相応しい新たな領域を創出しようような基礎学力を身につけます。講義の前には、その領域の参考文献（オリエンテーション時に配付されるスケジュール・シラバス参照）や推薦図書（「[9](#)参考文献」を参照）などを前もって読んでおくことをお勧めします。ひとつの領域といってもその領域に含まれる学問分野は多様ですので、推薦図書とその領域の講義には直接的な関連性はないかもしれませんが、その領域の共通する学問手法を見出すための良い経験となるでしょう。

ひとつの領域のリレー講義が終了すると、必ずレポートが課されます。大学におけるレポートは、単に4回の講義を要領よくまとめた「ノートテイク」ではありません。講義で示された知見や考え方をもとに図書館などで自ら文献などにあたり、時にはフィールドワークを実施し、与えられたレポートのテーマに対して調査をもとにした自らの論理的な考え方や知見を示さなければなりません。レポートの書き方は、「[5](#)レポート・小論文の書き方」にありますので、必ずよく読んでおいてください。

② 国際ワークショップ

国際ワークショップでは、クラスの中で幾つかのグループをつくり、文献などにもとづいたひとつのテーマについて、意見を取りまとめ発表する場です。テーマには、リレー講義と直接の関係はありませんが、各領域のリレー講義で培った知見をもとに自らの意見を発信してください。大学での授業では、講義に出席し、その内容を理解することは、要求される作業の半分であるに過ぎません。大学では「受信」よりむしろ「発信」が要求されるのです。「発信」はリレー講義の領域ごとに課されるレポートもひとつの形態ですが、ワークショップのような場で成果を発表することも重要なひとつの形態です。また、個人単位ではなくグループ発表ですから、グループ内の意見を取りまとめたり、一緒に調査したりする能力も求められます。これらのことは先生に指示されて行うことではありません。自ら必要と思われることを考えて、そして自ら動かないといけません。みなさんの積極的で自主的な活動を期待します。

国際ワークショップは、大きく分けて2回実施します。「国際ワークショップⅠ」は、前期第2週目から始まって第14週目の発表会までです。「国際ワークショップⅡ」も同様に後期第1週目より第14週目の間に3回行います。詳細は以下ようになります。「国際ワークショップⅡ」の内容は、みなさんの学習状況に応じて検討するためまだ決めておりませんが、「国際ワークショップⅠ」と同じ進め方になる予定です。

【国際ワークショップⅠ】

- 第2週目 : テキストをもとにしたテーマについて、各領域の教員3名よりシンポジウム形式でそれぞれの考え方、知見を語ってもらいます。質疑応答の時間も設けます。
- 第7週目 : 第2週目のシンポジウムをもとに、図書館で文献にあたるなど自らの問題意識に応じて調査し、その結果をまとめてレポートを提出してもらいます。
- 第9週目 : 提出されたレポートを返却し、教員がレポートに関する講評をします。講評等をもとに、同じテーマにおいてレポートを再度作成し、再提出（次週）してもらいます。また、発表会の班編成も行います。この週以降、班ごとで打ち合わせや調査など、自主的に活動してください。
- 第10週目 : レポートを再提出します。

第12週目：予備日となっています。次週からの発表会に向けて、最後の準備や打ち合わせをする時間として利用してください。

第13・14週目：班ごとでまとめた結果を発表します。プレゼンテーション方法や時間など、工夫した発表を期待します。

6 テーマリサーチ型ゼミナールで卒業論文（非卒業論文形式含む）を提出するには

1) テーマリサーチ型ゼミナールで卒業論文（非卒業論文形式含む）を提出するには

テーマリサーチ型ゼミナール受講学生の皆さんは、従来のような卒業論文提出の形態（卒論形式）もあり得ますが、クラスによっては、そこで制作する卒業論文は従来の専攻のような論文形態によらず、共同で成果物（本の出版等）を仕上げてこれを卒業論文とすることができるという形態（非卒論形式）も認められています。提出期日・提出先・提出方法については、卒論形式か非卒論形式かによって取り扱いが異なります。必ずクラス内で担当教員に、いずれの形式なのかを確認してから作成してください。※卒論形式・非卒論形式いずれの場合も「卒業論文・卒業制作テーマ届」（←卒論形式・非卒論形式共通）は全員提出してください。

「卒業論文・卒業制作テーマ届」事務室提出締め切り：10月6日（木）午後5時まで

テーマ届変更期間：11月28日（月）～12月5日（月）

2) 体裁について

卒論形式で制作の場合	文書体裁	字数・書式・用紙の大きさなどはクラス担当者の指示に従うこと
	表紙等に関する体裁	題目、学生証番号、氏名を必ず記載すること
	その他注意	1. 学生本人のみの執筆による単著であること。共同執筆の類は該当しない。 2. 口頭試問日程等 3. は担当者の指示に従ってください 4. 提出締め切り等の詳細は「テーマリサーチ型ゼミナール・卒論形式で提出する方」を参照してください。
非卒論形式で制作の場合	文書・表紙体裁	体裁については全てクラス担当者の指示に従うこと
	その他注意	1. 制作物（成果物）の提出が不要の場合であっても卒業論文・卒業制作テーマ届を所定の期日までに文学部事務室へ提出してください。 2. 制作物（成果物）の提出が必要な場合、提出期日・提出先・提出方法などは担当教員の指示に従ってください。 3. 口頭試問に相当するものとして、「卒業制作発表会（仮）」を実施することがあります。実施日については、担当教員の指示に従ってください。

3) テーマリサーチ型ゼミナール卒論形式で提出をされる方の提出について

◆「2005年度卒業論文」の提出締切期限は、

12月20日（火）午後5時とします。＜時間厳守＞

- ※ 提出の際は、学生証が必要です。
- ※ 必ず本人が持参してください。事前許可なしで代理提出はできません。
- ※ 締切時間は厳守してください。遅延提出は一切認められません。
- ※ 卒業論文の提出の形式が整っていないと受理できないケースもありますので、万端に準備してください。
- ※ 単なる体調不良や交通機関の延着機器等の故障・勤務の都合等の理由での提出遅延は、認められません。余裕を持って提出できるように心がけてください。
- ※ 予測不可能かつ緊急の事態などで、どうしても締め切り前の提出が困難になった場合、自分で判断せず、必ず事前に文学部事務室に一報してください。事前連絡・相談があったケースに関してのみ、本人申請書・証明書類を提出の上、教授会の審議を受けた上で提出の延期を許可する場合があります。（全てが許可されるとは限りません。）事前連絡と必要な書類手続の両方が満たされていることが大前提です。

事前の連絡がない場合は、事後の対応が不可能になります。

- ◇「卒業論文」の提出前に、「卒業論文・卒業制作テーマ届」を文学部事務室に提出することが必要です。「卒業論文・卒業制作テーマ届」の提出締め切り期限は、

10月6日（木）午後5時とします。

- ◆論文審査の主査・副査の発表は、10月下旬から11月上旬とします。日程・方法は授業内で指示します。

- ◇口頭試問の日程は、基本的に1月下旬から2月中旬に行う予定です。個人別の日時は、授業内にて担当教員の指示に従ってください。

※ 卒業旅行の日程は、口頭試問を避けてください。

- ◆卒業論文の形式は、各専攻・プログラムにより異なりますが、以下の形式は共通ですので、必ず守ってください。

- ① 卒業論文は、添付資料なども含め、必ず**2部**提出してください。
- ② 表紙に論題、氏名、学生証番号などを記載してください。

2005年度卒業論文 「〇〇 (論題)」 学生証番号、氏名

- ③ 論題は、事務室に提出した「卒業論文・卒業制作テーマ届」と全く同一でなければなりません。卒業論文作成中に論題の変更が必要となれば、主査・副査の変更がないか必ず指導教員に確認した上で、事務室で届変更の手続きを行ってください。テーマ自体が変わるなど、大きな変更は認められません。
- ④ 主査・副査の名前を記した紙（シールになっています）を、おもて表紙の裏側に貼り付けてください（2部とも）。「主査・副査シール」は文学部事務室で配付しています。主査・副査は10月下旬から11月上旬に担当教員から指示します。
- ⑤ 体裁については担当者の指示に従って作成してください。
体裁については、担当が点検します。したがって、窓口・提出会場で受け付けられた論文でも、担当者の所で体裁上の不備が発見された場合は、口頭試問の時点でF評価となることがありますので、注意してください。

日程	内容
10月6日（木）午後5時まで	「卒業論文・卒業制作テーマ届」事務室提出締め切り
10月下旬～11月上旬	主査・副査発表（担当教員による指示）
11月28日（月）～12月5日（月）	題目変更期間
12月13日（火）	卒業論文受付開始
12月20日（火）午後5時まで	卒業論文提出締め切り ＜時間厳守＞
1月中旬頃	口頭試問日程発表（担当教員による指示）
1月下旬～2月中旬	口頭試問実施

◎5回生以上の学生で、前期に卒業論文を提出する方の日程

日 程	内 容
4月28日（木）午後5時まで	「卒業論文・卒業制作テーマ届」事務室提出締め切り
7月1日（金）～7月8日（金）	題目変更期間
7月13日（水）	卒業論文受付開始
7月20日（水）午後5時まで	卒業論文提出締め切り ＜時間厳守＞
7月下旬～8月	口頭試問はこの間に実施します。日程は各担当教員に確認してください。

7 レポート・小論文の書き方

文章を書く力は知の大きな柱です。私たちは書きながら考え、考えながら書きます。書くことと考えることはコインの裏表です。書くことで思考は鍛えられ、思考は現実のものとなります。国際プログラムでは書く力を育てることをとりわけ大切にしています。それは書く力が学ぶ力を支えているというだけでなく、卒業後、みなさんが国際社会の各分野で活躍するとき、大きな力となると考えるからです。

(1) レポートと小論文

レポートと小論文はどちらも大学では学習の一環として課される、あるいは試験に代えて達成度を測るために課される課題作文のことです。レポートと小論文についての明確な定義はありません。人によって同じ意味で使う人もいれば、区別して使う人もいます。

このようにその意味が明確でないのは、その成り立ちに原因がありそうです。「レポート」ということばは和製英語です。英語のreportはできごとや活動を説明した「報告」のことで、授業で提出する課題はpaperとよびます。ペーパーはある主題について実証的に論じたもので、学術論文の形式にのっとったものを指します。「小論文」は入試などで課される課題作文という意味で使われるようになったのがその始まりです。これはかなり最近、教育界で使われるようになったことばで、国語辞典にもまだ記載はありません。英語では授業で提出する課題作文のことをessayと言います。これはペーパーほど厳密ではないものの、ある主題について実証的に論述したものを指します。私たちが小論文とよぶものは英語のessayにほぼ相当します。

(2) 文章には目的がある

どのような文章にも目的があります。その目的は大きく、「読者を楽しませる」「読者を説得する」「読者に知識を伝える」という3つに分けることができます。物語や随筆などは文章を読むことそのものに楽しさがあります。これは読者を楽しませる目的で書かれたものです。広告や選挙公報の文章は読者になんらかの行動を起こさせる目的で書かれています。新聞や雑誌の記事、大学で教科書として読むような本は知識を伝えるのが目的です。また、知識を伝えながら説得するというふうに、複数の目的が重ねて使われる場合もあります。

レポートと小論文の目的は知識を伝えるところにあります。レポートも小論文も単に自分の思いを述べた作文ではないという点が大切なところです。文章がいかにおもしろくても、主張に熱がこもっていても、知識を伝えていなければレポート、小論文とはよべません。正しく、わかりやすく、切れ味鋭く知見を伝えるのがレポートと小論文の役目です。

(3) 新たな知見

レポート、小論文が伝える知識は新たな知見でなければなりません。私たちが文章を読むのはそこに新たな知見があるからです。「日本国憲法の大きな柱のひとつは平和主義だ」というのは私たち共通の知識です。しかし、このことをそのまま書いてもレポート、小論文とは言えません。だれもがすでに知っている内容をあらためて文章化しても、それを読もうとする人はいないでしょう。読者に読ませるためには、読者の目を開かせる新しい知見がなければなりません。たとえば、軍隊を持たないコスタリカの憲法と比べて論じれば、日本国憲法は世界的に先進的な内容をもつ憲法で、「その第9条は世界の人々から高く評価されている」という知見を展開できるでしょう。

この新たな知見というのは「大発見」がなければ小論文ではないという意味ではありません。小論文の小論文たるゆえんは、そこに小さくてもきらりと光る新しい知見があるということです。小さなことではあっても、そこから大きく広がる可能性をもった知見を探ることが大切です。

(4) 実証性

小論文が小論文として成立するためには、新たな知見のほかに実証性が必要です。実証性とは単なる思いつき、主観ではなく、証拠立てて、だれもが納得できるように論議をすることです。これは小論文と感想文を比べてみるとよくわかります。

感想文には実証性は求められません。映画を見ての感想、本を読んだ感想、旅行をしての感想、どれも人によ

って異なります。同じグループで旅行をして、その感想文を書けばみんな内容は違っているでしょう。明媚な風光に心動かされた人、その土地の食べ物に思い出を残した人、仲間とのおしゃべりが一番楽しかった人などさまざまです。そのうちのどの感想が正しかったのかと問うのは意味のないことです。感想は主観的であることがゆえに感想です。

これに対し、学術的なペーパーとよばれるものはその実証性が身上です。豊かな日本でホームレスとよばれる人々に代表されるように貧困に苦しむ人々が数多くいます。なぜ豊かな社会で貧困に苦しむ人々が存在するのか。それに対して、「家族制の崩壊が原因だ」「競争社会の悲劇だ」「怠け者だからだ」などと意見を言うことはできます。しかし、それは感想に過ぎません。ホームレスとよばれる人々は以前から存在したのか、いつから増えたのか、その背景は何だったのか。これは感想では解決できません。現代日本の社会構造の変化を緻密に調べ上げ、場合によればホームレスの人々に面談しながらその背景を突き止めていかなければなりません。つまり、実証によってあきらかにしていかなければなりません。この実証性こそが学術の身上です。

（５）分野によって異なるアプローチ

人文科学は広い領域で、扱う対象が多岐にわたります。文献、史料をもとに研究を行う表現文化系、文書史料系であっても文献、史料の見方、扱い方には違いがあります。文学では文献に表れた表現、内容そのものが研究対象となるのに、歴史ではその裏にある事実を見ようとします。心理学、言語学のような行動科学系では数値化されたデータをもとにモデルを構成するという手法がよく使われます。一口に人文科学とは言っても、その手法には大きな違いがあります。

このため、人文科学においては実証性へのアプローチに大きな違いがみられます。表現文化系ではその研究手法のなかに「データ」ということばはあまり出てきません。行動科学系のアプローチには逆に「作品を読む」という言い方はまず出てきません。同じ学術の実証性を志向してはいても、そのアプローチには大きな違いがあるのです。ペーパーの書き方にも分野により違いがあります。言語という同じ分野について見ても、英語で書く場合には文学系では現代語協会というところが定めた書式で書きます。しかし、応用言語学系ではアメリカ心理学会が定めた書式で書くことが一般的です。このふたつの書式はペーパーの構成、書誌情報の記載など大きく異なっています。人文科学系それぞれの分野の教員の指導にしたがって書き方を学んでください。

（６）良質の文章を読む

私たちの書く力は読む力を超えることはできません。一般に文章を書いた後はしばらく時間をおいて読み直し、推敲を行います。書く力より読む力の方が高いので、自分で書いた文章であっても、読んでみると、その欠陥がよく見えてきます。このため、書いた文章は自分が読者となって推敲できるのです。

書く力を高めるためには読む力を高めなければなりません。このためには良質の文章をたくさん読み、深く考える努力を重ねることが必要です。また、そこからわかりやすい、切れ味鋭い文章を書く秘訣を学ぶこともできます。

文章の書き方についての本を読むことも勧められます。人文科学は広い領域の分野ですから、どの分野にも共通に使える解説書をあげるのはむずかしいことです。しかし、文章を書くということがどのようなことを具体例で教えてくれる本として薦めたい本があります。井上ひさしほか『井上ひさしと141人の仲間たちの作文教室』（新潮文庫 い-14-29）は小さな文庫本ながら、作家、井上ひさし氏の知恵を凝縮して見せてくれる本です。

（７）辞書を手元に

文章を書く場合には手元に辞書を置いておきます。これには漢字を正しく書くということだけでなく、もっと大切な意味があります。たとえば、みなさんは「右」をわかりやすく説明することはできますか。辞書はどのようなことばでも正確に、わかりやすく説明するために心血をそそいでいます。そこから、わかりやすい、切れ味鋭い表現を学ぶことができます。また、「古い」という意味を表す場合、どんな場合でも「古い」で間に合わせてしまうのではなく、その意味によって「古びた」「かび臭い」「年季の入った」「時代がかかった」「前時代的な」「古拙な」など言い分けること大切です。これはどれだけ細かく対象を観察できるか、その人の力の表れです。辞書を使わずに文章を書くのは、嵐の海にボートでこぎ出そうとするのと同じ無謀なことです。船乗りが羅針盤を使って航路を定めたように、私たちも辞書を羅針盤として文章を書くことを心がけましょう。

8 国際プログラムのためのユニットプログラム

文学部では2004年度より、皆さんの学び方の指針として、ユニットプログラムという考え方を提示しています。ユニットプログラムとは、皆さんの所属する専攻・プログラムの特色を活かした将来像を念頭においたうえでの学び方・大学生活の過ごし方の指針です。具体的には、専攻・プログラム毎に以下のような3つのユニットを提示します。

① 総合教養形成型ユニット

所属する専攻・プログラムの教学を中心としつつも、文学部の幅広い学問分野を広く修め、それを活かしてどのような将来像を描けるか、を提示します。

② 専門職養成型ユニット

所属する専攻・プログラムの特色を活かした専門的力量や技能などを形成し、それを活かしてどのような将来像を描けるか、を提示します。

③ 研究職養成型ユニット

所属する専攻・プログラムの教学を深く修め、将来、(大学教員などの)研究職を目指す方策を提示します。

また、文学部には10専攻3プログラムがありますので、専攻・プログラムの特性に応じた内容となっています。

そして、これはよく覚えておいて頂きたいのですが、必ずしもこのユニットの想定する将来像だけが全てではない、ということです。極端な話をすれば、文学部を卒業して、ロースクールに入って、弁護士になる事だってありえる選択肢なのです(実際、司法試験に合格した文学部卒業生は過去にいますし、2004年度より設置されたロースクールは、法学部卒業生以外にも広く門戸を広げています)。皆さんの意欲次第では、どのような道も開けるでしょう。

では、なぜこのようなユニットプログラムを提示するかという趣旨は、皆さんが皆さん自身の将来像をよく考えて、それに向かって有意義な(学問やそれ以外も含めた)学生生活が送れるようにしていただきたいからなのです。目指す将来像が明らかになれば、それに向けた学生生活も充実することでしょう。

もちろん大学生活を送っていく中で目指したい将来像が変わることはありえますし、それは全く問題ありません。したがって、ユニットプログラムは一つを選択するとか一つのユニットに所属するといったものではありません。今まで申し上げましたように、ここに提示するユニットはあくまでも例示です。これらを参考にして、皆さんが将来を考える一助になるよう願っております。

なお、「ユニットプログラム」は、本専攻を通じて身につく素養や経験を踏まえた卒業後などの想定されるキャリア形成とのための学生生活の指針であり、「履修モデル」は、卒業論文で取り扱う研究テーマをタイプ別に分類し、その分野で推奨する履修科目を挙げたものです。それぞれの目的は異なっており、混同しないように留意してください。

3 ユニット共通の獲得目標

- ・日本語以外にコミュニケーションが可能なレベルの外国語を1つは修得する。
- ・歴史、文化、民族などの背景を通じて、世界の複数の国、地域の理解を深める。
(例. 中文・東洋史科目⇒中国文化・歴史、哲学・英米・西洋史科目⇒アメリカ・イギリス・ドイツ・フランスなどの文化・歴史、日文・日本史⇒日本の文化・歴史、地理・学際P科目⇒民族・地域・比較)
- ・テーマを持ち、そのテーマを通じて国際社会、国際関係の研究を深める。

総合教養形成型ユニット

【人材像】～現代世界に向けて行動する教養人～

- ・ひとつだけではなく、なるべく多くの地域やテーマの知識の修得を目指し、国際社会が現状に至った背景や経緯の理解を通じて、国際社会・国際関係の全体像を把握する。
- ・人文学的な視点を通じた、世界観を育む。
- ・これらのカリキュラムを通じて蓄積した知識と世界観を、国際社会・国際関係の中で発揮できる行動力を身に付ける。

【カリキュラム】

- ・アジアと欧米でそれぞれひとつの地域または国の歴史・文化・民族などを学び、更にもうひとつの地域や国

(更にアジアや欧米で選んでも良いし、アフリカ、中東、南米、東欧などのその他の地域を選択しても良い)を学ぶ。

- ・単に歴史、文化、民族の知識を修得するだけではなく、その知識を通じてその地域の現在の理解を再構築する視点を持って学ぶ。
- ・その地域を学ぶ際に、歴史のみ、文化のみといった学び方をせず、複数の角度からその地域を理解する。
- ・なるべくふたつめの演習として国際関係学部演習を受講し、現在の国際社会・国際関係の実態や社会学的な捉え方も身に付ける。
- ・海外スタディやインターンシップ実習には積極的に参加し、肌でその地域を実感する体験を積む。

【その他の学生生活】

- ・可能であれば留学をして、異文化体験を深める。
- ・国際化などを通じて学内にいる留学生との交流にも積極的に参加する。
- ・自主ゼミ活動やサークル活動などに積極的に参加し(もしくは設立し)、育んできた問題意識を社会に向けて発信していく活動をする。

【卒業後】

- ・商社や国際的な企業へ就職し、グローバルな企業活動を通じて国際貢献をする。
- ・マスコミへや文筆活動の就職を通じて、問題意識を社会的に発信する。

専門職養成型ユニット

【人材像】

- ・共通獲得目標に加え、専門的な技能や知識などを習得し、国際社会で活躍する。

【カリキュラム、就職、その他】

専門職として設定できるキャリアは多種多様であるが、以下に例を挙げる。いずれにせよ、専門職としてキャリア形成するためには学部4年間だけではなく、その後の更なる学習や経験が必要となる。学部の学習は専門職への土台作りと、広い国際的な視野の形成時期と考えるべきである。

- 国際公務員を目指す。国際公務員になるためには様々なルートがあるが、海外大学院への留学は非常に重要である。したがって、在学中の成績はきちんと取得し、卒業論文の作成も高いレベルを目指すべきである。また、どのような専門分野を目指すのか、目標は早期に定めた方が良い。試験分野の学習は、学内で学ぶことは難しいので、自学次週で進めたい。英語の他にフランス語の学修も進めるべきである。
- 日本文化を海外へ広める①。イノベーションプログラムの日本語教育プログラムを学び、更に国際プログラムで異文化理解と外国語運用能力を深め、日本語教師を目指す。本学の言語教育情報研究科などに進学し、日本語教育のレベルを高めることが望ましい。
- 日本文化を海外へ広める②。イノベーションプログラムの京都文化リサーチプログラムを学び、更に国際プログラムで異文化理解と外国語運用能力を深め、海外の学芸関係の職に就く。国内・海外大学院を目指すことが望ましい。
- 国際的に活躍する法曹人を目指し、ロースクール進学を目指す。ロースクールには、法学部以外の入学者層を一定程度想定しており、国際プログラムで育んだ問題意識をもって、法曹人として国際貢献していく。ただし、学部在学中は専門職キャリアを形成するという学びの集約はしないので、学習の方法としては「総合教養形成型ユニット」に属するとも言える。

研究職養成型ユニット

【人材像】

- ・共通獲得目標に加え、国際的視野と豊富な知識、外国語運用能力を習得し、専門分野について大学院で研究を続ける。

【カリキュラム】

- ・国際と呼ばれるものの中でも、専門とする分野を決める。国際関係、あるいは各国文化、異文化間コミュニケーションなど。国際インスティテュート科目および文学部専門科目の中からその専門分野に関する授業を集中的に履修する。分野によっては他学部受講を活用する。

- ・例えば国際関係を専門分野とする場合には、国際関係学部の科目を他学部受講する。
- ・例えば各国文化を専門分野とする場合には、外国語の副専攻を必ず履修して、外国語運用能力を高める。
- ・例えば異文化間コムを専門分野とする場合には、イノベーションプログラムの日本語教育プログラムや現代中国プログラムを学ぶ。
- ・ゼミで専門分野についての知識・能力を高める。もし自分の専門分野に適したゼミがなければ、働きかけて作ってもらう。
- ・二つめの演習として、国際関係学部の演習か、文学部の各専攻などの演習を受講し、方法論を学ぶ。

【その他の学生生活】

- ・学部ないしは大学院で一年以上海外留学する。
- ・国際課などを通して学内にいる留学生との交流（バディ、チューターなど）にも積極的に参加する。
- ・自主ゼミを組織して、問題意識を高める。

【卒業後】

- ・国内、海外を問わず、大学院に進学する。立命館の各研究科に進学するのであれば、分野によって、次のような選択肢が考えられる。
国際関係 国際関係研究科
各国文化 文学研究科 もしくは社会学研究科現代社会領域
異文化間コム 言語教育情報研究科
- ・博士後期課程修了、博士学位取得後、大学や研究所の教員、研究者となる。

9 国際プログラムのみなさんのための参考情報

ここでは国際プログラムの学生のみなさんに共通する興味ある情報を紹介します。なお、自身で興味ある事柄については、自身で積極的に情報収集することが重要ですので、これに頼らずに、みなさん自身が様々な手段で情報を収集してください

1. 海外留学

海外留学を目指している方も多いと思います。在学中に、海外留学に行く方法は、大学を休学していく方法と、本学が海外の大学・大学院と結んでいる提携を利用して2通りあります。2つの大きな違いは、学年の進行と単位の認定です。前者は、休学期間中は回生が進みませんが、後者は留学中も回生が進みます。また、前者は基本的に単位認定をしますが、後者は可能なものは単位認定をします。（詳細は、個別事例によって異なることもあります。）

ここでは、後者の海外留学のケースについて、簡単に紹介します。留学についての詳細は、国際課（明学館1階）で相談できます。また、「外国留学の手引き」という冊子も国際課で配付しています。

① 立命館・UBCジョイントプログラム

(1) 立命館・UBCジョイントプログラムとは

立命館大学とカナダのバンクーバーにあるブリティッシュ・コロンビア大学（UBC）が共同で開発した独自のカリキュラムに基づき、2回生を中心とした100名の学生がUBCキャンパスで言語教育科目やコア科目、及びUBCの正規科目を学ぶとともに、「立命館・UBCハウス」をはじめとするキャンパス内の寮でUBC学生と共同の生活を行うプログラムです。

(2) 留学期間

8月末から翌年4月下旬までの約8ヵ月で、9～12月（ターム1）と1～4月（ターム2）の2タームに（学期）分かれています。本学の学年としては後期にあたりますが、UBCでは1学年の正規学期開講期間となります。また、8ヶ月のプログラムを終えた後、継続してUBCで学習するプログラムもあります。

(3) カリキュラム

このプログラムのために独自に開発したカリキュラムで、参加学生のアカデミックな英語力と学力の向上を目指します。また、一定の受講要件を満たせば、UBC正規開講科目を自らの関心・専門分野に応じて受講する道も開かれています。

■言語教育科目 「英語で学び考える力」を養うことが目的の科目で、ターム毎に2科目開講され、各科目と

も講義・ラボ・チュートリアル各1コマから構成されている。

■カナダ研究 ターム1に開講するカナダに関する入門コース。文化、社会学・社会問題、法律と社会、経済の4分野から各自の関心に応じて選択。講義とチュートリアル各1コマから構成されている。

■コア科目 本学とUBCの教員各1名が共同担当する科目で、ターム2に下記の2科目を開講。
『異文化間コミュニケーション』『環太平洋研究』

*チュートリアル：ティーチングアシスタントが指導する討論中心のクラス

課外活動として、DIS (Directed Independent Study・教員の指導を受けながら行う自主学習) や、ボランティア活動も提供されます。

(4) 募集 日程・募集条件は変更となる場合があります。募集要項を参照して下さい。

i) 募集人数

100名 (APU学生若干名を含む)

ii) 応募資格

- ・本学学部の新入生
- ・原則として1回生 (派遣時2回生)
ただし、上回生も応募可能
- ・TOEFL/ITPスコア450点以上の者
TOEFL/CBTスコア133点以上の者

iii) 応募日程 (予定)

要項発表: 10月中旬

応募受付: 11月下旬

内定者発表: 翌年1月上旬

派遣者決定: 翌年3月下旬

② 交換留学

(1) 交換留学とは

交換留学とは、立命館大学と学生交換協定を締結している大学へ留学する制度です。

派遣先においては各自の専門分野に応じた正規開講科目 (初修語圏は主に語学の授業) を受講します。従って、交換留学には高い語学力と学力、各自で物事に対処することのできる強い精神力と適応力が求められます。

(2) 学生交換協定校所在国 (地域)

アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、フランス、ドイツ、イギリス、イタリア、スウェーデン、デンマーク、中国、香港、台湾、韓国、フィリピン、メキシコ

※協定校は、年度によって変更がありますので、国際課で確認しましょう。

(3) 学籍上の取り扱いおよび卒業時期について

学籍上は「留学」となり、留学期間是在学期間に算入されますので、4年間の卒業が可能です。ただし、文学部の場合、卒業論文と4回生演習が4回生通年科目として必修科目として課されていますので、4回生後期前に帰国し、後期から本学に復学するようなスケジュールとなると、4回生終了時点で卒業はできなくなります。留学を計画するときは、学部事務室にその点をよく相談しましょう。

(4) 経費

協定により、本学に学費を納入すれば、派遣先大学へ学費を納入する必要はありません。しかし、渡航費、滞在費などは自己負担となります。必要経費は各人により異なりますが、一般的に欧米圏では月8~12万円、中国で月4~5万円、韓国で約月8万円、フィリピンで月3~5万円程度が目安です。

また、立命館大学では外国の大学で正規の授業科目の学習を行う本学学生に対し経済的援助として、奨学金を支給しています。また、民間団体等による奨学金があります。応募時期などありますので、希望される方は早めに国際課で相談しましょう。

(5) 応募資格など

交換留学は、希望者から選抜して派遣されます。派遣に際しては語学の基準などありますので、交換留学希望者は計画的な語学学習を心がけましょう。(その他に、学業成績、人物なども選考対象となります。)

基準は変更される可能性がありますので、募集要項で確認して下さい。

例) 中国 南開大学 中国語検定3級程度

韓国 延世大学 ハングル検定3級程度

カナダ ブリティッシュ・コロンビア大学 TOEFL580点以上、CBT237点以上

アメリカ オクラホマ大学など TOEFL550点以上、CBT213点以上

フランス トゥールーズ・ル・ミラーユ大学など フランス語検定3級程度

ドイツ チュービンゲン大学など ドイツ語検定3級

2. 海外大学院留学

卒業後、海外の大学院へ留学する目標を持っておられる方も多いと思います。国際公務員になるためには海外大学院への留学はほとんど必須と言って良いでしょう。海外への大学院留学は、国、その目的などによって、千差万別ですので一概に説明できません。ここでは、海外大学院留学のための一般的なスケジュールと、情報収集の方法を説明しましょう。

① スケジュール（大学院留学辞典より：アルク）

(1) 2年～1年半前

- ・ スケジュールリング
- ・ 情報収集（留学関連書籍、留学関連機関、インターネットなど）
- ・ 出願に必要なテストを受験（TOEFL、IELTS、GRE、GMAT、LSAT、MCAT・・・）
（事前準備チェックポイント）
 - i) 留学後のキャリアプランを立てる
 - ii) 留学期間の目処をつける
 - iii) 資金調達の目処をつける
 - iv) 自分の英語力を診断する
 - v) 学びたい分野の学力を診断する

(2) 1年半～10ヶ月前

- ・ 願書、資料請求
- ・ 出願校選び

(3) 10～6ヶ月前

- ・ 書類作成、出願（入学願書、エッセー、履歴書、テストのスコア、推薦状・・・etc）

(4) 直前

- ・ 入学手続き
- ・ 渡航準備

② 情報収集方法

- ・ 公的留学機関

例) アメリカ：日米教育委員会

イギリス：ブリティッシュカウンシル

オーストラリア：オーストラリア政府教育情報センター

その他：日本教育協会 留学情報センター

- ・ インターネット

上記、公的留学機関のホームページの他、様々なサイトがあります。

- ・ 留学セミナー

秋は、様々な留学セミナーが開催されます。

（例、<http://www.ryugaku.co.jp/event/index.php>）

- ・ 外国語学校などの留学カウンセラー

3. 国際公務員になるためには？

皆さんの中にも、国際公務員を志望されている方がいらっしゃると思います。国際公務員になるためには、様々な方法があります。ここでは基本的な方法を紹介します。

(次のホームページより抜粋：外務省国際機関人事センター、Club JPO)

① 国連職員とは

国連職員は、国連やその下部組織、専門機関などに勤務し、ニューヨークやジュネーブなどの本部の他、世界中の開発途上国で活躍しており、専門職と一般職に分けられます。

専門職は、専門的知識や技術を活かして、業務に当たる職員で、P級職員（プロフェッショナル・レベル）といいます。また、管理職に当たるD級（ディレクター・レベル）と国際機関の事務局長などの職員も含まれます。公募は、空席公募で国際的に行われ、そのポストに合った即戦力となる者が採用されます。職務内容としては、各機関で実施するプログラム（開発、経済、環境など）に直接携わる業務と、それをサポートする官房業務（財務、人事、総務、広報など）に分類されます。

一般職は、各国際機関の本部やフィールド事務所において、専門職の下で一般事務を担当している職員で、GS（ジェネラル・スタッフ）といいます。原則として、各国際機関所在地の現地採用になりますので、個別の機関に直接問い合わせ・応募することとなります。

(国連PKOミッションについて)

国連が世界各地に展開する国連平和維持活動（PKO）ミッションにも多くの公募ポスト（短期任用）があります。

② 国際公務員になるための主な方法

(1) 空席公告への応募

国際機関に採用されるためには、空席公告へ応募することが基本になっています。空席公告は、ポストに空席が生じ、その空席を埋める必要がある場合に発表されます。

(2) アソシエートエキスパート（JPO）

外務省では給与等の経費を負担して将来正規の国際公務員を志望する若手邦人を一定期間国際機関に派遣し、国際機関勤務を通して専門知識を深め、国際的経験を積んでもらう制度－アソシエート・エキスパート（JPO、APOともいう）－を設けています。→⑤参照

(3) 国連職員採用競争試験

国連事務局が実施。若手国連職員を採用するため、大学卒業以上の方を対象とした試験を実施している。この試験に合格し、正式に採用された場合には、国連事務局に正規職員として勤務することになります。

(4) その他

ヤングプロフェッショナルプログラム（世銀、ILO、UNESCO等）、UNDP LEADプログラム、ロスター登録プログラム（WFP、FAO、外務省）、採用ミッション等様々な採用方法があります。詳しくは各機関の採用情報ページか外務省国際機関空席情報ページを参照してください。

③ 国際機関職員になるために求められる基本

- ・語学力 英語もしくは仏語で職務遂行が可能であること
- ・学位 修士号以上の学位があること
- ・専門性 学位取得分野での勤務経験など

④ 国連職員採用競争試験応募要綱（2005年度）抜粋 参考

1. 概要

国連事務局は、外務省と協力して、若手国連職員を採用するため、大学卒業以上の方を対象とした公開競争による職員採用試験を実施しています。この試験に合格し、正式に採用となった場合には、ニューヨーク、バンコク、ジュネーブ、ナイロビ、ウィーン等の国連事務局で正規職員として勤務することになります。待遇：P1/P2レベル

2005年度締切り：2004年9月5日（日） 国連事務局（ニューヨーク）必着

2. 試験分野（2005年募集）

総務（行政）Administration、財務 Finance、人権、Human Rights、人道支援 Humanitarian Affairs
広報 Public Information、社会 Social Affairs

※各分野の職務内容については、国連競争試験ウェブサイトの英文募集要綱をご覧ください。

国連競争試験：<http://www.un.org/Depts/OHRM/examin/exam.htm>

3. 受験資格

年齢等：日本国籍を有し、32歳以下（2005年12月31日現在）（1973年1月1日以降に生まれた方）

経歴等：上記試験実施分野において学士号以上の学位を有すること（修士号以上、受験分野での職歴・著作物があればより望ましい。）

語 学：英語またはフランス語で職務遂行が可能であること（他の国連公用語の知識があればより望ましい。）

⑤ アソシエート・エキスパート（AE）等派遣制度の概要、2003年度募集要綱抜粋

(1) 制度の概要

外務省では、将来正規の国際公務員を志望する若手邦人のために、一定期間（原則2年）各国際機関で職員として勤務することにより、専門知識を深め、国際的業務の経験を積む機会を提供するアソシエート・エキスパート（AE）等派遣制度を設けており、毎年選考試験に合格した者を国連システム内の国際機関等に派遣しています。

アソシエート・エキスパート等の給与・手当等は、すべて日本政府（外務省）の拠出により賄われており、全ての派遣者の給与の格付けはP2レベルとなります。また、給与、手当等は国連職員の規則に基づいて支払われます。

この制度により派遣される者は、機関によりAE（Associate Expert）、JPO（Junior Professional Officer）、APO（Associate Professional Officer）又はトレーニーと称されています（通常これをAE等と総称）。

(2) アソシエート・エキスパート等の将来性

アソシエート・エキスパート（AE）等派遣制度は、将来正規の国際公務員となることを志望する若手邦人に、国際機関で経験を積む機会を提供することを主眼としていますが、任期終了後に、自動的に国際機関の正規職員になることができるわけではありません。

換言すれば、アソシエート・エキスパート等としての勤務は、その国際機関での職務経験が正規職員への一つのステップとなるものですが、その勤務終了後に正規職員となるためには、通常の手続きに従って空席ポストに応募して採用される必要があります。

アソシエート・エキスパート等として国際機関に勤務し、勤務中の成績が優秀であった者の中で、引き続いて正規職員として派遣先機関に採用される者や、その後一定の期間を経て派遣先機関あるいは他の国際機関に採用される者もいます。

4. 外務省専門職員を目指すには？

外務省専門職員とは、将来、外務省および在外公館で外交領事業務もしくはそれに関連する事務をこなす中堅職員のことです。

外務省では、約40の外国語の語学専門家を養成しており、また、多様化した国際情勢に因應するため、多くの地域別・分野別の専門家の養成に力を入れています。

外務省専門職員採用試験から採用された職員は、入省2年目から2～3年間の在外研修を受け、研修終了後は、研修を受けた国の在外公館の館務に就くか、あるいは研修語を国語（又は通用語）とする別の国にある在外公館に転勤になるか、又は本省に戻って勤務することになります。その後は、概ね3～5年ごとに本省勤務と在外公館勤務を繰り返し、語学専門家として、また、右語学が使用されている国や地域の社会、文化、歴史等に精通した国・地域別の専門家として、或いは、経済、経済協力、軍縮等の分野別の専門家として活躍することが期待されています。試験は以下のとおりになっています。

公 告 日 4月上旬

申込受付期間 4月中旬～4月下旬

第1次試験日 6月中旬

第2次試験日 8月

第1次試験

- ・一般教養（多肢選択式で、合格基準点が設けられています）
- ・専門教科（記述式）

「憲法」「国際法」「経済学」「外国語和訳」「和文外国語訳」の5科目。外国語は英語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、イタリア語、オランダ語、アラビア語、中国語、朝鮮語、タイ語、ミャンマー語、ペルシャ語、ウルドゥ語、ヒンディー語、ヴェトナム語、インドネシア語のうちから

一カ国語を選択します。

・時事論文

第2次試験

外国語会話、個別面接・集団討論、胸部レントゲン撮影等を含む一般的な身体検査

最終合格者発表 8月下旬

受験資格は20歳以上29歳未満の者。または20歳未満の者で翌年の3月までに短大か高専卒業見込みの者となっています。採用後のキャリアしだいでは幹部への昇格の可能性もあります。

学び方は過去問題を利用することもできます。試験は大学卒業レベルで、参考として前年度の試験問題は外務省ホームページで見ることができます。取得期間の目安は本人しだいで、学習に必要な期間は個人差があります。合格率は約5.9%です。取得者の傾向としては、受験者は大学生、大学院生が多数を占めます。

また、その他に国家公務員採用Ⅰ種試験の採用で外交官になるケースもあります。この場合は、入省3年目から語学学習のために2～3年間の在外研修に出ます。研修終了後は、研修を受けた国の在外公館の館務に就くか、その他の在外公館に転勤になるか、又は本省に戻って勤務することになります。その後は、概ね4～8年ごとに本省勤務と在外勤務をくり返しながらか、能力及び勤務成績に応じて昇進し、将来は幹部職員となることが期待されています。国家公務員Ⅰ種は非常に難関な試験ですが、もちろん不可能ではありません。外務省専門職員を目指す場合でも、国家公務員Ⅰ種を目指す場合でも、早期からの準備が必要です。エクステンションセンターの講座を利用するなどして、試験対策をしましょう。

10 参考文献

◆A分野（表現文化系）

小島晋治他編『中国百科』（大修館書店、1997年）

中国の歴史や文学についての概説書は多いが、中国の文化全般にわたって網羅的に書かれている書籍というのは大変少ない。その中でこの『中国百科』はあらゆるジャンルについてふれている珍しい書籍である。そのため一つ一つの記事の分量は非常に少なく、あることを調べようという目的にはあまり向かない。これを読んで興味をもった中国文化のジャンルがあれば、その方面の書籍を探して読むとよいだろう。

小野忍・中野美代子訳『西遊記』（岩波書店〈岩波文庫〉、1993年）

小川環樹・金田純一郎訳『完訳三国志』（岩波書店〈岩波文庫〉、1988年）

入門の授業では西遊記や三国志について話をするので、これらについて全く何も知らないという人がいると少し困る。西遊記や三国志に関する本なら何でもよいからある程度の内容を知っててもらいたい。少年少女向けの読み物とか、横山光輝の漫画とかでも全くかまわない。上記の書籍は数ある関連図書の代表として挙げたが、小説の翻訳本であり分量も多いので、全く知識を持っていない人には実は向かない。

『中国映画の全貌100 1098-1995』（大映・東光徳間、1995年）

中国映画に関する書籍も増えてきたが、とりあえず数多くの映画の概要を知るために上記の書籍を薦めたい。中国演劇に関しても簡単に読める本があればよいのだが、今のところかなり専門的な書籍が多いので、授業の中で紹介することとする。

（その他）

貝塚茂樹『中国の歴史』（岩波新書）

井波律子編『中国史重要人物101』（新書館）

平野 純編『上海コレクション』

◆B分野（文書史料系）

近藤孝弘『国際歴史教科書対話：ヨーロッパにおける「過去」の再編』（中央公論社〈中公新書〉、1998年）

ヨーロッパで行われている歴史教科書を通じた国民国家間の対話を紹介したこの著作を通じて、国民史的な歴史および歴史教育の意味を考える。

イアン・ブルマ著、石井信平訳『戦争の記憶；日本人とドイツ人』（TBSブリタニカ、1994年）

日本とドイツの戦争犯罪に関する戦後処理問題を扱ったこの著作を通して、過去を記憶することの意味、国際化された社会の中で歴史を理解することの意味を考える。

高橋哲哉『戦後責任論』（講談社、1999年）

近年、特に戦後50年周年を境に、戦争責任問題で活発な議論が展開されているが、この著作を通してこの問題の意味を探る。

（その他）

溪内 謙『現代史を学ぶ』（岩波新書）

◆C分野（フィールドリサーチ系）

市川健夫『フィールドワーク入門―地域調査のすすめ―』（古今書院、1985年）

「景観を観察するだけで、様々な地域の実像を認識できる手法を体得できる」地理学のおもしろさを平易に解説していて読みやすい。

ピーター・ゲールド著、杉浦・二神／矢野・立岡・水野訳『現代地理学のフロンティア（上）／（下）』（地人書房、1989／1994年）

地理学とは何か？という素朴かつ本質的な疑問を誰もが持つことであろう。その答えを探すには、これら2冊の本を通読されることを薦めたい。本書は、多様な研究対象・方法を有する地理学について、主に1950～60年代以降に展開した計量革命後の研究トピックをわかりやすく紹介した入門書である。地理学以外の人を対象に書かれた書物でもあるので、あまり関心のない人にもお勧めである。

（その他）

井上智彦・須田昭久 編『世界の環境都市に行く』（岩波ジュニア新書）

◆D分野（行動科学系）

町田健『言語学が好きになる本』（研究社、1999年）

言語学に楽しく入っていけるように、日常のことばに関する素朴な疑問に答えながら解説した本。

町田健『生成文法がわかる本』（研究社、2000年）

日本語や英語といった違いを超えた、人間の言語一般にあてはまる文法は何か。このような一見難しい問題を、肩のこらない調子で解説した本。理論好きな人向きだが、高校までの英語の知識があれば理解できる。

粕山洋介『認知意味論のしくみ』（研究社、2002年）

ことばがどういうときにどういう意味で使われるかに興味のある人向き。

町田健『日本語のしくみがわかる本』（研究社2000年）

高校まで教わってきた、国語の時間の文法がおもしろくなかった人でも興味が湧くように書かれている。日本語を母語とする私たちが、いかに文法を無意識に使ってしゃべっているかが実感できる。

中島平三『発見の興奮－言語学との出会い－』（大修館書店、1995年）

学生時代に自分のやりたいことを模索していた著者が、どのようにして言語学に出会い、学問に対する楽しさや知的興奮を体験していったかを述べた本。学者がどうして学問などに夢中になるのか、ことばの問題を通して教えてくれる。

◆E分野（メタ思考系）

岡崎・日下部他著『西洋哲学史－理性の運命と可能性－』（昭和堂、1994年）

E分野の授業では、2600年の哲学思想の流れをふまえた上で、現代の国際世界の底流をなす思想状況がどのようなものであるかを教示したいと考えている。本書はギリシアから現代のポスト・モダンまでの哲学を俯瞰している。現代の国際世界を根底において規定している哲学を歴史をふまえて理解する上で、本書は最良の導きとなろう。

（その他）

丸山真男『日本の思想』（岩波新書）

岡本太郎『今日の芸術』（光文社文庫）

◆その他

英語論文の書式・書き方を解説した本を紹介します。留学等考えている方は是非チャレンジしてください。

J. ジバルディ他編著、原田敬一訳編『MLA英語論文の手引き』（北星堂）

トラウビアン著、高橋作太郎訳『英語論文の書き方』（研究社）

アンドルー・アーマー他著『アカデミックライティング応用編』（慶応義塾大学出版会）

ジョン・スウェイルズ／クリスティン・フィーク著 御手洗靖（訳）『効果的な英語論文を書く』（大修館書店）

樋口昌幸『英語論文表現事典』（北星堂）

崎村耕二『英語論文でよく使う表現』（創元社）

迫村純男（訳）『英語論文に使う表現文例集』（ナツメ社）

加藤恭子、ヴェネッサ・ハーディ『英語小論文の書き方』（講談社現代新書）



科 目 一 覽

1 科目一覧 人文総合科学インスティテュート 国際プログラム

国際プログラム1回生

[illegible]

1. 科目名のカッコ数字は単位数を示します。
2. *のついた科目は、人文総合科学インスティテュートの学生のみが受講できます。
3. ※のついた科目は、国際プログラムの学生のみが受講できます。
4. #のついた科目は重複受講できます。
5. 下線のついた科目はその回生でしか受講できません。
6. 「海外スタディ」「国内／海外インターンシップ」「スチューデントイニシャティブ実習」の単位数は、プログラムにより異なります。
7. 「国際福祉社会論」「アジアの福祉研究」「国際福祉政策論」「国際保健医療政策研究」「国際家族研究」「国際社会政策論」「国際教育援助論」「多文化共生論」は2006年度からの開講です。
8. JWP科目は2005年度より順次開講していきます。
9. 専門外国語科目の「政治・経済・法律・社会分野英語」は、JWP生は1回生で履修をします。
10. 「英語プレゼンテーションと討議」は、JWP生は2回生で履修をします。
11. プログラム共通1回生配当、入門科目（国際法務入門、多文化社会入門、国際協力入門、国際マス・メディア入門、国際公共政策入門、国際福祉入門）は6科目のうち1科目しか履修できません。
12. 「民族誌の諸問題」「他者認識の歴史」は学際プログラムでも同じ科目名で開講しています。国際プログラムの学生は国際プログラムで開講されるクラスを受講してください。（2006年より開講）

国際プログラム 2 回生

区分	国際プログラム専門科目	国際インスティテュート科目		
		専 門 外 国 語	専 門 科 目	
			国際社会プログラム	プログラム共通
1 回 生	<u>* 人文総合科学研究入門 (4)</u>		<u>※国際社会フォーラム入門 (2)</u>	※国際法務入門 (2) ※多文化社会入門 (2) ※国際協力入門 (2) ※国際マス・メディア入門 (2) ※国際公共政策入門 (2)
2 回 生	<u>* 人文総合科学基礎講読Ⅰ・Ⅱ (各2)</u> # 人文総合科学外書講読Ⅰ・Ⅱ (各2) <u>* 人文総合科学概説Ⅰ・Ⅱ (各2)</u>	※国際社会プログラム英語 (4) ※英語プレゼンテーションと討議Ⅰ (2) ※英語プロジェクト研究 (IS)Ⅰ (2) ※政治分野英語 (2) ※経済分野英語 (2) ※法律分野英語 (2) ※専門中国語Ⅰ～Ⅲ (各2) ※専門フランス語Ⅰ～Ⅲ (各2) ※専門ドイツ語Ⅰ～Ⅲ (各2) ※専門スペイン語Ⅰ～Ⅲ (各2)	<u>※国際社会フォーラムⅠ (2)</u> ※国際文化論 (2) ※国際協力論特論 (2) 宗教と国際社会 (2) フィールドリサーチ論 (2) ※NGO・ラテン組織論 (2) ※グローバリゼーションと日本 (2) ※国際人権法 (2) ※グローバルメディア論 (2) ※エスニシティとネーション (2) ※社会開発論 (2) ※環境経済論 (2) ※国際環境政策 (2) ※国際福祉論 (2) ※国際福祉社会論 (2) ※アジアの福祉研究 (2) ※国際福祉政策論 (2) ※国際保健医療政策研究 (2) ※国際家族研究 (2) ※国際社会政策論 (2) ※国際教育援助論 (2) ※多文化共生論 (2)	※特殊講義 (2) ※海外スタディ ※国内インターンシップ (国際インスティテュート専門) ※海外インターンシップ (国際インスティテュート専門) ※スチューデントイニシャティブ実習 以下は JWP プログラム科目です。 ※ (JWP) Environmental Economics (2) ※ (JWP) International Relations (2) ※ (JWP) Comparative Historiography (2) ※ (JWP) International Cooperation (2) ※ (JWP) International Peace Studies (2) ※ (JWP) International Organizations (2) ※ (JWP) International Development and Aid (2) ※ (JWP) Contemporary International Politics (2) ※ (JWP) International Public Policy (2) ※ (JWP) The United Nations (2) ※ (JWP) International Law (2) ※ (JWP) Welfare in Asia (2) ※ (JWP) International Management (2) ※ (JWP) International Sociology (2) ※ (JWP) International Political Theories (2) ※ (JWP) North-South Relations (2) ※ (JWP) Japan-United States Relations (2) ※ (JWP) US Politics and Law (2) ※ (JWP) Japanese Politics (2) ※ (JWP) Foreign Relations of Japan (2) ※ (JWP) Japanese Economy (2) ※ (JWP) Japanese Society (2) ※ (JWP) Contemporary Japanese Culture (2) ※ # (JWP) Area Studies 1 (2) ※ # (JWP) Area Studies 2 (2) ※ (JWP) Asia-Pacific Relations (2) ※ # (JWP) JWP Special Studies (2)
3 回 生	<u>#ゼミナールⅠ (テーマリサーチ) (4)</u> # 人文総合科学外書講読Ⅲ・Ⅳ (各2)	※国際社会プログラム上級英語 (4) ※英語プレゼンテーションと討議Ⅱ (2) ※英語プロジェクト研究 (IS)Ⅱ (2) ※専門中国語Ⅳ～Ⅶ (各2) ※専門フランス語Ⅳ～Ⅶ (各2) ※専門ドイツ語Ⅳ～Ⅶ (各2) ※専門スペイン語Ⅳ～Ⅶ (各2) ※国際言語文化論Ⅰ・Ⅱ (各2)	<u>※国際社会フォーラムⅡ (2)</u> ※国際社会論 (2) 移動と文化変容 (2) 第三世界とジェンダー論 (2) ※第三世界政治論 (2) ※国際平和論 (2) ※国際開発援助論 (2) ※国際産業開発論 (2) ※民族誌の諸問題 (2) ※他者認識の歴史 (2)	
4 回 生	<u>#ゼミナールⅡ (テーマリサーチ) (4)</u> <u>* 卒業論文 (4)</u>			
備 考	国際プログラム専門科目は国際インスティテュート科目 (30単位以上必修) に算入されません。	国際インスティテュート専門科目: 合計30単位 専門外国語科目: 12単位以上 専門科目: 14単位以上		

- 科目名のカッコ数字は単位数を示します。
- *のついた科目は、人文総合科学インスティテュートの学生のみが受講できます。
- ※のついた科目は、国際プログラムの学生のみが受講できます。
- #のついた科目は重複受講できます。
- 下線のついた科目はその回生でしか受講できません。
- 「海外スタディ」「国内／海外インターンシップ」「スチューデントイニシャティブ実習」の単位数は、プログラムにより異なります。
- 「国際福祉社会論」「アジアの福祉研究」「国際福祉政策論」「国際保健医療政策研究」「国際家族研究」「国際社会政策論」「国際教育援助論」「多文化共生論」は2006年度からの開講となります。
- JWP科目は2005年度より順次開講していきます。
- 「英語プレゼンテーションと討議Ⅰ」は2005年度までの開講、「英語プレゼンテーションと討議Ⅱ」は2006年度までの開講となります。
- 「民族誌の諸問題」「他者認識の歴史」は学際プログラムでも同じ科目名で開講しています。国際プログラムの学生は国際プログラムで開講されるクラスを受講してください。(開講は2006年度からです。)

国際プログラム3回生以上

区分	国際プログラム専門科目	国際インスティテュート科目		
		専 門 外 国 語	専 門 科 目	
			国際社会プログラム	プログラム共通
1 回 生	*人文総合科学研究入門(4)		※国際社会フォーラム入門(2)	※国際法務入門(2) ※多文化社会入門(2) ※国際協力入門(2) ※国際マス・メディア入門(2) ※国際公共政策入門(2)
2 回 生	*人文総合科学基礎講読Ⅰ・Ⅱ(各2) #人文総合科学外書講読Ⅰ・Ⅱ(各2) *人文総合科学概説Ⅰ・Ⅱ(各2)	※国際社会プログラム英語(4) ※英語プレゼンテーションと討議Ⅰ(2) ※英語プロジェクト研究(IS)Ⅰ(2) ※政治分野英語(2) ※経済分野英語(2) ※法律分野英語(2) ※専門中国語Ⅰ～Ⅲ(各2) ※専門フランス語Ⅰ～Ⅲ(各2) ※専門ドイツ語Ⅰ～Ⅲ(各2) ※専門スペイン語Ⅰ～Ⅲ(各2)	※国際社会フォーラムⅠ(2) ※国際文化論(2) ※宗教と国際社会(2) ※国際平和論(2) ※フィールドリサーチ論(2) ※NGOボランティア組織論(2) ※国際協力論特論(2) ※グローバリゼーションと日本(2) ※国際人権法(2) ※国際環境政策(2) ※グローバルメディア論(2) ※国際福祉社会論(2) ※アジアの福祉研究(2) ※国際福祉政策論(2) ※国際保健医療政策研究(2) ※国際家族研究(2) ※国際社会政策論(2) ※国際教育援助論(2) ※多文化共生論(2)	※特殊講義(2) ※海外スタディ ※国内インターンシップ (国際インスティテュート専門) ※海外インターンシップ (国際インスティテュート専門) ※スチューデントイニシャティブ実習
3 回 生	#ゼミナールⅠ(テーマリサーチ)(4) #人文総合科学外書講読Ⅲ・Ⅳ(各2)	※国際社会プログラム上級英語(4) ※英語プレゼンテーションと討議Ⅱ(2) ※英語プロジェクト研究(IS)Ⅱ(2) ※専門中国語Ⅳ～Ⅶ(各2) ※専門フランス語Ⅳ～Ⅶ(各2) ※専門ドイツ語Ⅳ～Ⅶ(各2) ※専門スペイン語Ⅳ～Ⅶ(各2)	※国際社会フォーラムⅡ(2) ※エスニシティとネーション(2) ※社会開発論(2) ※移動と文化変容(2) ※第三世界とジェンダー論(2) ※第三世界政治論(2) ※環境経済論(2) ※国際産業開発論(2) ※国際福祉論(2) ※国際開発援助論(2) ※国際社会論(2)	
4 回 生	#ゼミナールⅡ(テーマリサーチ)(4) *卒業論文(4)			
備 考	国際プログラム専門科目は、国際インスティテュート科目(30単位以上必修)に算入されません。	国際インスティテュート専門科目：合計30単位 専門外国語科目：12単位以上 専門科目：14単位以上		

1. 科目名のカッコ内数字は単位数を示します。
2. *のついた科目は、人文総合科学インスティテュート学生のみが受講できます。
3. ※のついた科目は、国際プログラムの学生のみが受講できます。
4. #のついた科目は、重複受講ができます。
5. 下線のついた科目は、その回生でしか受講できません。
6. 太字の科目は2004年度・2005年新カリキュラムのうち、みなさんが受講できるものです。2004年度から2006年度にかけて順次開講していきます。
7. 国際インスティテュート科目は、5・6回生の学生にも適用されます。
8. 「海外スタディ」「国内インターンシップ」「海外インターンシップ」「スチューデントイニシャティブ実習」の単位数はプログラムにより異なります。

【国際プログラムの履修構造】

教養(基礎)科目 (24単位以上)	外国語 (14単位)	専門科目 (70単位以上)	自由選択科目 (16単位)	合計 124単位以上
		文学部 専門科目 (40単位以上)		
		国際インスティテュート 専門科目 (30単位) [専門科目14単位以上 専門外国語12単位以上]		

2 履修方法

2005年度以降入学生

【必修科目・登録必修科目】

必修科目 卒業するために必ず単位を取得しなければならない科目

①	ゼミナールⅡ (テーマリサーチ) (4回生以上) 人文総合科学演習Ⅱ (4回生以上)	1科目4単位選択必修
②	卒業論文 (4回生以上)	4単位必修

登録必修科目 (必ず登録・受講しなければならない科目)

③	リテラシー入門 (1回生のみ)	1科目4単位 (教養科目)
④	人文総合科学研究入門 (1回生のみ)	1科目4単位
⑤	人文総合科学概説Ⅰ (2回生以上)	1科目2単位
⑥	人文総合科学外書講読Ⅰ・Ⅱ (2回生以上)	2科目4単位
⑦	人文総合科学基礎講読Ⅰ・Ⅱ (2回生のみ)	2科目4単位
⑧	人文総合科学情報処理Ⅰ・Ⅱ (2回生のみ)	2科目4単位 (教養科目)
⑨	外国文化講読 (第一外国語) (3回生以上)	1科目4単位 (人文科学総合講座)
⑩	ゼミナールⅠ (テーマリサーチ) (3回生のみ) 人文総合科学演習Ⅰ (3回生のみ)	1科目4単位選択
⑪	国際社会フォーラム入門 (1回生のみ)	1科目2単位
⑫	国際社会フォーラムⅠ・Ⅱ (2・3回生)	2科目4単位

*国際インスティテュート専門外国語で英語を選択した場合、上記以外に登録必修科目がいくつかあります。詳細は『国際インスティテュート学修ガイドブック』を参照してください。

2004年度以前入学生

【必修科目・登録必修科目】

必修科目 卒業するために必ず単位を取得しなければならない科目

①	ゼミナールⅡ (テーマリサーチ) (4回生以上) 人文総合科学演習Ⅱ (4回生以上)	2003年度以降入学生：ゼミナールⅡ (テーマリサーチ) もしくは人文 総合科学演習Ⅱから1科目4単位選択必修 2002年度以前入学生：ゼミナールⅡ (テーマリサーチ) 1科目4単位 必修
②	卒業論文 (4回生以上)	4単位必修

*人文総合科学演習Ⅱを必修の4回生ゼミとして履修できるのは2003年度以降入学生のみです。

登録必修科目 (必ず登録・受講しなければならない科目)

③	リテラシー入門 (1回生のみ)	1科目4単位 (教養科目)
④	人文総合科学研究入門 (1回生のみ)	1科目4単位
⑤	人文総合科学概説Ⅰ (2回生以上)	1科目2単位
⑥	人文総合科学外書講読Ⅰ・Ⅱ (2回生以上)	2科目4単位
⑦	人文総合科学基礎講読Ⅰ・Ⅱ (2回生のみ)	2科目4単位
⑧	人文総合科学情報処理Ⅰ・Ⅱ (2回生のみ)	2科目4単位 (教養科目)
⑨	外国文化講読 (第一外国語) (3回生以上)	1科目4単位 (人文科学総合講座)
⑩	ゼミナールⅠ (テーマリサーチ) (3回生のみ) 人文総合科学演習Ⅰ (3回生のみ)	2003年度以降入学生：ゼミナールⅠ (テーマリサーチ) もしくは人文 総合科学演習Ⅰから1科目4単位 2002年度以前入学生：ゼミナールⅠ (テーマリサーチ) 1科目4単位
⑪	国際社会フォーラム入門 (1回生のみ)	1科目2単位
⑫	国際社会フォーラムⅠ・Ⅱ (2・3回生)	2科目4単位

*国際インスティテュート専門外国語で英語を選択した場合、上記以外に登録必修科目がいくつかあります。詳細は『国際インスティテュート学修ガイドブック』を参照してください。

3 受講登録上の注意

1 回 生

1. 下記の科目は、クラス指定を行っています。指定されたクラスを本登録してください。

- ①外国語科目（第1・第2）⇒クラスは掲示にて発表します。
- ②リテラシー入門⇒クラスは掲示にて発表します。
- ③人文総合科学研究入門⇒クラスは掲示にて発表します。
- ④国際社会フォーラム入門⇒クラスは掲示にて発表します。

2 回 生

1. 下記の科目は、クラス指定を行っています。指定されたクラスを本登録してください。

- ①初修外国語・応用⇒第1外国語として初修外国語を選択したみなさんが履修します。クラスは掲示にて発表します。

英 語Ⅶ・Ⅷ⇒第1外国語として英語を選択したみなさんが履修します。国際プログラムの学生は国際プログラム専用のクラスを履修します。

※英語を第2外国語とした方でも、「英語Ⅶ・Ⅷ」の履修が可能です。その場合取得した単位は自由選択分野に参入されます。

- ②人文総合科学基礎講読Ⅰ・Ⅱ⇒クラスは掲示にて発表します。
- ③人文総合科学情報処理Ⅰ・Ⅱ⇒クラスは掲示にて発表します。

2. 下記の科目は予備登録科目です。指定された日に予備登録を行ってください（『履修要項』を参照）。予備登録の結果決定したクラスを必ず本登録してください。

- ①人文総合科学外書講読Ⅰ・Ⅱ
- ②国際社会フォーラムⅠ⇒国際インスティテュート事務局で行います。『国際インスティテュート学修ガイドブック』を参照してください。
- ③国際インスティテュート専門外国語で英語を選択した場合、上記以外に登録必修科目がいくつかあります。詳細は『国際インスティテュート学修ガイドブック』を参照してください。

3 回 生

1. 下記の科目は予備登録科目です。指定された日に予備登録を行ってください（『履修要項』を参照）。予備登録の結果決定したクラスを必ず本登録してください。

- ①ゼミナールⅠ（テーマリサーチ）、人文総合科学演習Ⅰ（2003年度以降入学者のみ履修可）
⇒すでに前年度中に予備登録を済ませ、許可を受けたクラスを本登録してください。
- ②外国文化講読（第一外国語と同じ語種）
- ③国際社会フォーラムⅡ⇒国際インスティテュート事務局で行います。『国際インスティテュート学修ガイドブック』を参照してください。
- ④国際インスティテュート専門外国語で英語を選択した場合、上記以外に登録必修科目がいくつかあります。詳細は『国際インスティテュート学修ガイドブック』を参照してください。

4 回 生

1. 下記の科目は本年度の登録で卒業の見込みが出る方のみが受講できます。決定したクラスを本登録してください。

- ①ゼミナールⅡ（テーマリサーチ）⇒すでに前年度中に予備登録を済ませ、許可を受けたクラスを本登録してください。
- ②卒業論文⇒卒論ゼミと同一のクラスを登録してください。

2. 下記の科目は本年度の登録で資格取得の見込みが出る方のみが受講できます。

- ①（教）教育実習⇒総合演習と同一のクラスを登録してください。
- ②（芸）博物館実習



学修を進めるにあたって

1 文献資料室と共同研究室

文学部には、教員・学生・院生の研究・学修の場として共同研究室と人文系文献資料室が設けられています。文学部教学の大きな目標である専門的知識・技能の養成や、自主的・集団的な学修・研究の充実のために、この二つの場が大きな役割を果たしています。

〈人文系文献資料室〉

修学館地階にある文献資料室には、主に文学部の学問・研究に関する専門図書、学会や大学が発行する学術雑誌、各種の資料（歴史学関係の史料を含む）、辞典、図録などが集中的に保管されています。それぞれの専攻・コースやインスティテュートに関する専門図書や資料などは、それぞれの専攻が重点をおいてきた専門分野や取書の方針によって特色をもつものとなっていますが、その中でも特に線装本など貴重な図書や、『立命館文学』との交換で寄贈された学術雑誌など、二度と取書することが至難なものについては、別置されています。しかし大部分の図書は開架閲覧方式がとられていて、書庫に入って図書を検索し、閲覧することができます。文献資料室の書庫は下記のとおり、各専攻関係の図書は次のように配置されています。

書庫A 日本文学・日本史・中国文学・東洋史・製本和雑誌（大学・一般）

書庫B キング・サイズなどの大型資料類

書庫C 漢籍・埋蔵文化財・未製本カレント・明大本・和装本など ※書庫Cの図書は閉架請求制です。

書庫D 哲学・心理学・英米文学

書庫E 西洋史・地理学・文化人類学・インスティテュート・地方史・中国雑誌・洋雑誌

研究内容が部分的に重なり、隣接分野となっている専攻間の図書・資料を相互に利用しやすいよう同一書庫に配置しています。それによって広い基礎をもち水準の高い学修研究の発展と、新しい研究課題の発見をが期待できるでしょう。

人文系文献資料室の図書は、全体として専門性の高いものが多く、したがって低回生にとって直接利用できる図書は少なく、広い教養を身につけるための啓蒙書、文学作品、一般の雑誌などについては、中央図書館の利用が望まれます。しかし上回生のレポート作成や卒業論文、修士論文の作成にあたっては、人文系文献資料室に収められた図書の利用が必要となる場合があります。所定の申し込みをすれば、開架閲覧を許していない貴重図書・学術雑誌の閲覧も可能です。

〈専攻・インスティテュート共同研究室〉

専攻院生・学生が教員とともに、専攻の学問研究について自主的な共同研究をおこなう場として10専攻およびインスティテュートそれぞれに共同研究室が設けられています。それぞれ違いがありますが、専攻・インスティテュートの教学にとって基本的な辞典などの図書、また演習・講読などのテーマと直接かわりのある専門図書などが置かれています。実験実習的な研究教育が重視されている心理学・地理学・日本史学専攻の考古学コースでは、機器・用具類も充実しており、専用の実験・実習室施設もあります。

これら共同研究室は、大学の休業日（土曜日・日曜日・祝日・夏期の一斉休業日、年末年始など）、および授業や卒業論文・修士論文の試問審査など、文学部の教務・事務にかかわって使用制限する場合を除いて、原則として毎日午前9時から午後9時30分まで利用できます。ただし、実際の時間は、専攻によって異なっていますので、各専攻の規定に従ってください。共同研究室の運営や利用の仕方および、日常的な運営については、教員・学生・院生の三者で協議することにしており、相互に円滑で節度のある使用を心がけねばなりません。

2 クラスロッカーの使用法について

（1）クラスロッカーについて

クラスロッカーは、研究入門、基礎講読、講読演習、演習などのクラス単位に必要なものを、一時的に保管しておくものです。例えば、研究入門の講義時に欠席者用レジュメなどを保管したりするために利用するものです。したがって、個人用の荷物を保管するようなことは禁止をしています。また、基本的に、カギをしめないで使用していただきますので、紛失しては困るものなどは収納しないようにしてください。

(2) 使用の手順

1. 文学部事務室へ、クラス単位であらかじめ利用の申請し、使用するロッカーの場所を決めます。

申請は随時受け付けますので、必要がある場合は、文学部事務室で手続きして下さい。

※オリエンテーション期間の「オリター懇談会」で選出する「クラス代表者」が、クラスを代表して手続きをするようにしてください。

2. 使用できる期間内は、必ず指定のロッカーを使用し、クラス単位で管理してください。
3. 使用期限が来れば、クラス単位で荷物の撤収を行ってください。

(3) 注意事項

利用上以下の点に注意して下さい。

- ①クラスロッカーは、事前の申請に基づいてクラス番号を付番し、クラス指定しますので、確認して下さい。
クラスロッカーは1クラス1ロッカーではありません。
- ②ロッカーは整理整頓に心がけて下さい。複数クラスで利用をお願いした場合、必ず物品のクラス間違いがないようにして下さい。
- ③物置ではありませんから、ロッカーに保管するのにふさわしくないものは入れないで下さい。また、施錠しませんので、貴重品など紛失しては困るものは入れないで下さい。
- ④万一紛失・盗難にあった場合、大学は責任を負いませんので注意して下さい。
- ⑤サークルなどの団体が無断で使用した場合は、速やかに撤去します。
- ⑥クラスロッカーの利用期限は、翌年3月15日（休日の場合はその前日）までです。ロッカーにはいつている物はすべて各クラスの責任で移動して下さい。翌年3月16日以降は、文学部事務室の責任で物品の廃棄をおこないます。

3 セミナーハウスの正課用利用の手引き

(1) セミナーハウスについて

立命館大学では、正課・課外活動などで活用して、多様な学生生活を通じて得られる「学びと成長」を支援する施設として、セミナーハウスがあります。ここでは簡単に紹介します。ぜひ各クラスで積極的に利用して下さい。

なお、今年の4月から6月にかけて、新入生のクラスとして合宿をする場合は、別途の手続きになりますので、(5)の説明を参照して下さい。

1. 衣笠セミナーハウス（立命館大学より徒歩5分）

①衣笠キャンパスに隣接したアカデメイア立命21の中にあり、洋室の会議室と宿泊室および和室の会議室兼宿泊室を擁し、宿泊できる人数は最大で150名の収容力を持つ施設です。

②国際平和ミュージアムも併設していますので、見学を兼ねてご利用ください。（併設施設は学生証提示で無料）

2. エポック立命21（びわこ・くさつキャンパス内）

①BKCCにもセミナーハウスがあります。

(2) 施設の利用料金

正課で利用する場合は、宿泊料は無料となります。なお、正課以外でも担当教員の承認印を得ればクラス単位で利用する時は小集団クラス援助金で利用できます。

(3) 施設の予約方法

利用にあたってはまず利用したいセミナーハウスに電話にて予約をしてください。利用日の3カ月前から1週間前（なるべく2週間前）までに、直接電話で利用期間・人数等を申請し、予約をしてください。（退館時に次回予約日の予約もできます）予約後の手続き等は、衣笠学生センター（研心館2階）に必要な書類がありますので、ご確認ください。

衣笠セミナーハウス：075-465-8110 エポック立命21：077-561-2700

(4) その他

正課以外で利用する場合は、宿泊料が必要です。詳しくは衣笠学生センターにてご相談ください。

(5) 新入生クラス合宿の手続きについて

4月から6月にかけては、クラス、ゼミが集中的に利用する可能性があるため、あらかじめ、学部枠が設けられています。新入生クラスが、クラス合宿を行いたい場合は、この「学部枠」内で優先的に予約することになります。この期間にクラス合宿を行いたいクラスの代表者は、文学部事務室学生係にご相談ください。

4 学生印刷室の利用について

(1) 利用方法の説明

各小集団クラスでは、正課授業時に利用するレジュメ印刷の際に、学生印刷室に設置されている輪転機を利用することができます。輪転機は原稿1枚につき、10部以上の印刷をするときに利用できます。なお、原稿を作成する際にはB4もしくはA4にしてください。

- ①文学部事務室前にある「小集団クラス印刷申請書」に必要事項を記載し文学部事務室窓口申請して下さい。
(事前に小集団クラス担当者許可印が必要です。)
- ②記入された「小集団クラス印刷申請書」と「学生証」を窓口提出して下さい。窓口設置されている受付台帳に記載した後、学生証と引き換えに「印刷機の鍵」をお渡しします。
- ③輪転機は、清心館1階 学生談話室東北角の学生印刷室内にあります。
- ④印刷用紙は、文学部事務室内東側にあります。申請した枚数をもって、印刷して下さい。(印刷に失敗する場合がありますので、若干余分に持って行ってください。学生印刷室内には、コピー機用の用紙が用意されていますが、これはコピー専用ですので、輪転機での印刷には、絶対に利用しないで下さい。)
- ⑤輪転機の利用方法は、学生印刷室内の掲示を確認してください。
- ⑥輪転機の使用が終了したら、速やかに「鍵」を事務室窓口まで返却して下さい。引き換えに学生証を返却します。(未使用の印刷用紙は、事務室内東側の位置に戻してください。)

(2) 「学生印刷室」の利用時間帯

1. 印刷は以下の時間帯で使用するようにして下さい。終了時間には必ず印刷が終了するようにして下さい。

授業日の 9:00~21:30

※窓口時間等に変更する場合がありますので、掲示等注意して下さい。

(3) 利用にあたっての諸注意

- ①鍵は他人に貸し出さないで下さい。また、他人の学生証でカギを貸すことはできません。
- ②「学生印刷室」は印刷物を散らかさないよう、整理整頓に心がけてください。
- ③輪転機が故障したら、機械を無理に操作せずに、事務室まで連絡してください。
- ④不正使用は絶対に行わないで下さい。もし不正利用が判明した場合、所属クラスの輪転機利用禁止、利用代請求などを行います。
- ⑤学生印刷室内には、コピー機用の用紙が用意されていますが、これはコピー専用ですので、輪転機での印刷には、絶対に利用しないで下さい。不正に利用したことが発見された場合は、賠償していただきます。

5 自主ゼミ援助制度について

(1) 自主ゼミ制度について

授業で学んだことをさらに発展させ、その研究成果をまとめていくため、学部内のメンバーで組織された学習グループ（自主ゼミ）に対して、施設貸与や資料作成の費用を援助する制度です。

(2) 参加資格

文学部生・文学研究科生の登録が可能です。他学部・聴講生・科目等履修生・卒業生は登録できません。

(3) 援助内容

1. 経済援助 生協で利用できるコピーカード 1,000円分
2. 施設貸与援助 学習会・研究会のための施設貸与および自治会輪転機使用（用紙は各自で準備）
3. 自主ゼミ用掲示板の使用 清心館 1Fにある自主ゼミ用掲示板を使用することができます。

(4) 受付期間・受付方法

登録の受付は、年2回、4月と10月に文学部事務室または文学部自治会（清心館 1F）にて行います。

登録手続きの詳細については、別途掲示にてお知らせします。（4月上旬および9月中旬に掲示予定です）

(5) その他

自主ゼミ活動についてはセメスター単位で登録を受け付けます。また、活動終了時に、活動実績・成果を報告してもらいます。

6 「小集団教育推進補助費」の取り扱いについて

(1) 「小集団教育推進補助費」の目的とその適用の範囲について

各小集団クラスにおける学生の自発的・集団的学習、研究活動を行うために必要な以下の目的について補助を行います。「小集団教育補助費」では下記の例のような使用が可能です。その執行については、各小集団において会計担当者を決めて文学部事務室に届け出て下さい。会計担当者には「クラス資料費伝票」を交付しますので、会計担当者が責任をもって管理・執行するようにしてください。

- ①生協発行のコピーカード（1回の購入限度額5,000円、1クラス15,000円まで）
- ②クラス共通のフロッピーディスク（1クラス2,500円まで）
- ③クラス教材用VTRテープ（1クラス2,500円まで）

※その他会計担当者に配布する「小集団教育推進補助費利用の手引」等を参照してください。

(2) 補助額

1クラスにつき年額15,000円です。

(3) 適用期間

毎年4月伝票交付日～翌年2月末まで利用できます。

(4) 使用の流れについて

各クラスで、クラス代表者とともに、「クラス会計」担当者2名を選出してください。

（1回生は、オリエンテーション期間の「オリター懇談会」において選出してください。）



クラス責任者は、事務室が主催する説明会に参加してください。

（説明は、文学部自治会が招集するクラス代表者会議（仮称）を通じて行います。連絡があった場合には、必ず参加するようにしてください。なお、その際には、印鑑を持参の上参加してください。）



「伝票」を交付します。

本学生協（中川会館地下1階）にて物品等の購入ができます。使用方法は、会計担当者に配布する「小集団教育推進補助費利用の手引」および「伝票」の裏書を参照してください。1クラス年間15,000円まで使用できます。使用期間は「伝票」交付日から翌年2月末までになります。伝票をなくした場合は、事務室に申し出てください。



「伝票」を返還します。

使用期限（翌年2月末日）を満了した場合は3月15日（休日の場合はその前日）までに、全額（15,000円）を使用した場合は、直ちに「伝票」を事務室に返還してください。

7 清心館「学生談話室」の利用について

清心館の一階に「学生談話室」があります。これは、学生の交流・休憩、クラス活動、自習等を行うための施設であり、文学部が「学生談話室利用申し合わせ」に基づいて文学部自治会と共同管理しつつ、日常的な運営を学生の自治に委ねています。利用者が相互に譲り合って、気持ちよく利用できるように努めてください。

1. 「学生談話室」は全面禁煙です。
2. 紙コップや空き缶などゴミは必ずゴミ箱へ捨てるようにしてください。
3. 椅子や机などを勝手に動かしたり、汚損したりしないようにしてください。
4. 「学生談話室」を利用して行事や情宣活動を行うことは許可制です。利用を希望する団体は、文学部自治会に相談の上、文学部事務室の許可を得てください。なお、許可された場合も「学生談話室利用申し合わせ」を遵守して利用するようにしてください。

8 立命館大学人文学会

立命館大学人文学会は、立命館大学文学部における学問研究の発展・深化と普及を目的として、文学部の教員・院生・学生によって構成された学会です。

当学会の活動は、1934（昭和9）年『立命館文學』の創刊に始まっています。この『立命館文學』は、斯界の評価も高く、月刊にて定期的に発刊されていましたが、戦争の拡大するなか、1940（昭和15）年10月には、ついに第60号の刊行をもって一時中断のやむなきにいたりました。しかし戦後間もない混乱期の1947（昭和22）年7月には、早くも『立命館文學』第61号の刊行を再開し、今日にいたっています。

1952（昭和27）年1月に、学会は立命館大学「人文学会」として正式に発足。会則を制定しました。1969（昭和44）年には、新たに学生部会が発足し、更に充実した学会に発展しました。

『立命館文學』の発行は、2005（平成17）年3月現在で、第589号に及んでいます。

人文学会の主要な活動は、『立命館文學』の刊行と教員・学生の研究・学修の助成におかれています。『立命館文學』に掲載された研究論文は、専任教員の論文をはじめ、学部学生の卒業論文のタイトルや院生の修士論文の概要、及び院生のおこなった書評や学界動向の紹介、さらには卒業生や非常勤講師の研究論文も数多く掲載されています。発表された研究論文の内容は、わが国の各分野の学界において高い評価をうけているものが多く、『立命館文學』の学会誌としての水準の高さを示しています。

『立命館文學』に掲載されている研究論文や、修士論文・卒業論文・博士論文（概要紹介）・書評・学会動向などは、教員の講義・演習に生かされ、また学生のグループ研究・個人研究の参考に供されていますが、今後ますますひろく活用されることを期待しています。

「人文学会」はまた院生・学生の自主的研究の助成をも目的としており、そのための事業として、学生部会による研究誌の発行、あるいは公開講演会の開催なども行なっています。学生諸君は人文学会委員を選出し、それを通じて学会運営に参加することとなっています。みなさんが学会活動に深い関心を持ち、積極的に参加されることをつよく望みます。

9 文学部事務室について

(1) 文学部事務室とは

文学部事務室は、文学部の学生のみなさんが必要な手続きをおこなったり、必要な提出物を提出する等、事務手続を行う窓口であるほか、試験や授業に関する連絡を行ったり、履修・進路・留学などの相談に応じる窓口でもあります。なお、電話での対応は、基本的に行っておりませんので、直接の来室、または、メールによる相談をお願いします。

- ◎ 学生印刷室にある輪転機を使用したいとき（学生証が必要です）
- ◎ 各専攻・プログラムの共同研究室を利用したいとき（学生証が必要です）
- ◎ 学割・証明書の発行（可能な限り、証明書自動発行機で購入してください。）
- ◎ 休学・復学・退学や追試験、受講登録、教育実習登録など、各種の手続き書類の配布・受付
- ◎ その他

文学部事務室を通じて、立命館大学が提供するさまざまなプログラムやサービス、施設などを活用し、積極的・主体的な学修・学生生活をおくってください。

(2) 窓口時間

※授業のない期間については、時期によって窓口時間が異なりますので、よく確認してください。

【開講期間中の窓口時間】 9：00～11：30 および 12：30～18：30

2005年度より窓口時間帯が18：30までとなります。ただし、夜を中心に学修する学生、社会人学生で上記時間内に来室する事が難しい場合は、18：30～21：30に来室してください。

なお、17：00以降は学芸員課程についての対応はできませんので注意してください。

(3) 文学部事務室ホームページ

【立命館大学文学部事務室ホームページ】 URL <http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/lt/jimu/>

文学部事務室では、主な情報をホームページで提供していますので、ご覧になってください。

（提供情報の一例）定期試験時間割、休講情報、教職課程・学芸員課程・学部独自インターンシップなどの諸連絡、その他

また、文学部事務室では、メーリングリストによる各種案内や休講情報も、随時行っています。1回生オリエンテーションでの「書類交付ガイダンス」でみなさんに配布する「RAINBOW ID通知書」のIDを活用して、情報入手してください。